

令和3年度（2021年度）「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業研究報告書  
（中間報告）

熊本県立熊本商業高等学校

## 1 研究テーマ及び目標

### （1）研究テーマについて

本校では、今年度「SOSの出し方に関する教育」の研究指定を受け、『怒と信頼の人づくり教育を柱とした逞しく自分らしく生き抜く力（ヒューマンスキル）の育成 ～「人とつながる」から「人とつながり合う」ことへの行動変容を目指して～』をテーマに本事業の研究を開始した。生徒がおかれている環境において、現在ならびに将来起こり得る危機的状況に対し、生徒自らが身近にいる信頼できる大人にSOSを出す援助希求行動ができ、その大人がそれを受け止め、支援ができるようにすることを目的とする。そのために、現在ある本校の販売実習「熊商デパート」やストレス対処プログラム等の教育活動を振り返り、商業高校の「人を育てる資源」を活用し、生徒の自己肯定感の自己有用感等を高め、よりよい人間関係を築くことのできる集団・仲間づくりを目指すことをテーマとした。また、公開授業では、生徒の自己有用感や自尊感情等を認識し、自己肯定感を高め、より良い関係づくりとともに教職員の実践的指導力の向上、いじめ防止等を含めた生徒指導上の諸課題の改善を目指した。

### （2）目標

上記の研究テーマで研究を進めていく上で、目標を次のように設定した。

- ① 本校の教育スローガン「志高く、怒と信頼の人づくり」を基盤として、急速に変化する現代社会の中で逞しく自分らしく生き抜く力（ヒューマンスキル）の育成と自らの声で自らの想いを届けることができる力の育成を目指す。
- ② 本校の教育の柱である販売実習「熊商デパート」を通して、他者理解や自己理解を深められるようにしたり、協働性や共感力、課題探究能力を高められるようにしたりすることで、社会で核となりうるビジネスリーダー（ビジネスパーソン）を育成する。

### （3）研究仮説の設定

生徒一人一人が自らの責任を自覚し、役割を果たし輝ける場を教職員が設定し、他者とのつながりの中で自らを表現していくことにより、達成感や他者との違いを受け入れる自己肯定感を高めることができると考える。

具体的な取組：販売実習「熊商デパート」、  
公開授業（ソーシャルスキル・トレーニング、ストレス対処プログラム）

## 2 研究内容

### （1）アンケート調査の事前・事後の比較（年2回実施：9月・1月）

調査は全学年を対象とする。事前・事後の比較を行い、自己肯定感や自己有用感などの変化を検証し、次年度の活動に活かす。アンケートは、学校生活における自己肯定感と他者理解に関する内容で実施する。

### （2）販売実習「熊商デパート」

販売実習「熊商デパート」を通して、販売実習に関わる情報共有や各部の業務内容の把握により、組織として他者の業務に目を向けて、援助できる協働性や共感力、課題探究能力を磨き、自己有用感を得られ、自己肯定感を高めていく。

### （3）公開授業（研究授業を含む）

各教科の授業の中で、生徒一人一人が責任を持って役割を果たし輝ける場を教職員が設定して実施する。  
2021年10月21日（木）：ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）全クラス校内公開授業  
2022年 2月 3日（木）：「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業における公開授業  
（オンライン開催）

(4) ストレス対処プログラム（平成28年度より実施）

全学年でストレス対処プログラムを学期毎に実施する。生徒間の価値観・考え方の違いに気付かせて、自己理解・他者理解を深められるようにして、個性の違いを尊重する態度を育てる。また、お互いの肯定的印象を伝えあう活動を通して、相手の人格を認める体験や相手から認められる体験ができるようにして、人格尊重の態度育成のきっかけとする。また、生徒が自己認知を変え、自己肯定感を高めるきっかけにできるように位置付ける。

(5) 研究計画および日程

① 研究体制

研究主任・教育相談部を中心にし、校長及び副校長・教頭・事務長・主幹教諭を総括・総括補助とし、教務部、生徒指導部、進路指導部、保健部、熊商デパート等との協力連携体制を深め、「SOS推進委員会」を設け、開催しながら研究を推進する。

② 実施計画

主な取組計画内容

1学期	2学期	3学期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者気づきアンケート（1年）</li> <li>・仲間づくり（1年）</li> <li>・ストレス対処プログラム</li> <li>・特別な配慮を要する生徒理解職員研修</li> <li>・シグマ検査による生徒理解職員研修</li> <li>・面談週間（担任と二者面談）</li> <li>・スコラ手帳の活用（振り返り）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SHORYUタイム（SNS相談）</li> <li>・公開授業 10月（ソーシャルスキル・トレーニング含む）</li> <li>・面談週間（担任と二者面談）</li> <li>・ストレス対処プログラム</li> <li>・特別な配慮を要する生徒理解職員研修</li> <li>・アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SHORYUタイム（SNS相談）</li> <li>・ストレス対処プログラム公開授業</li> <li>・アンケート調査</li> <li>・中間報告</li> <li>・特別な配慮を要する生徒理解職員研修</li> </ul>
通 年		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業関係の資格取得の学習</li> <li>・開放した環境の教育相談室</li> <li>・2人体制のSC（生徒面談）</li> <li>・販売実習「熊商デパート」</li> </ul>		

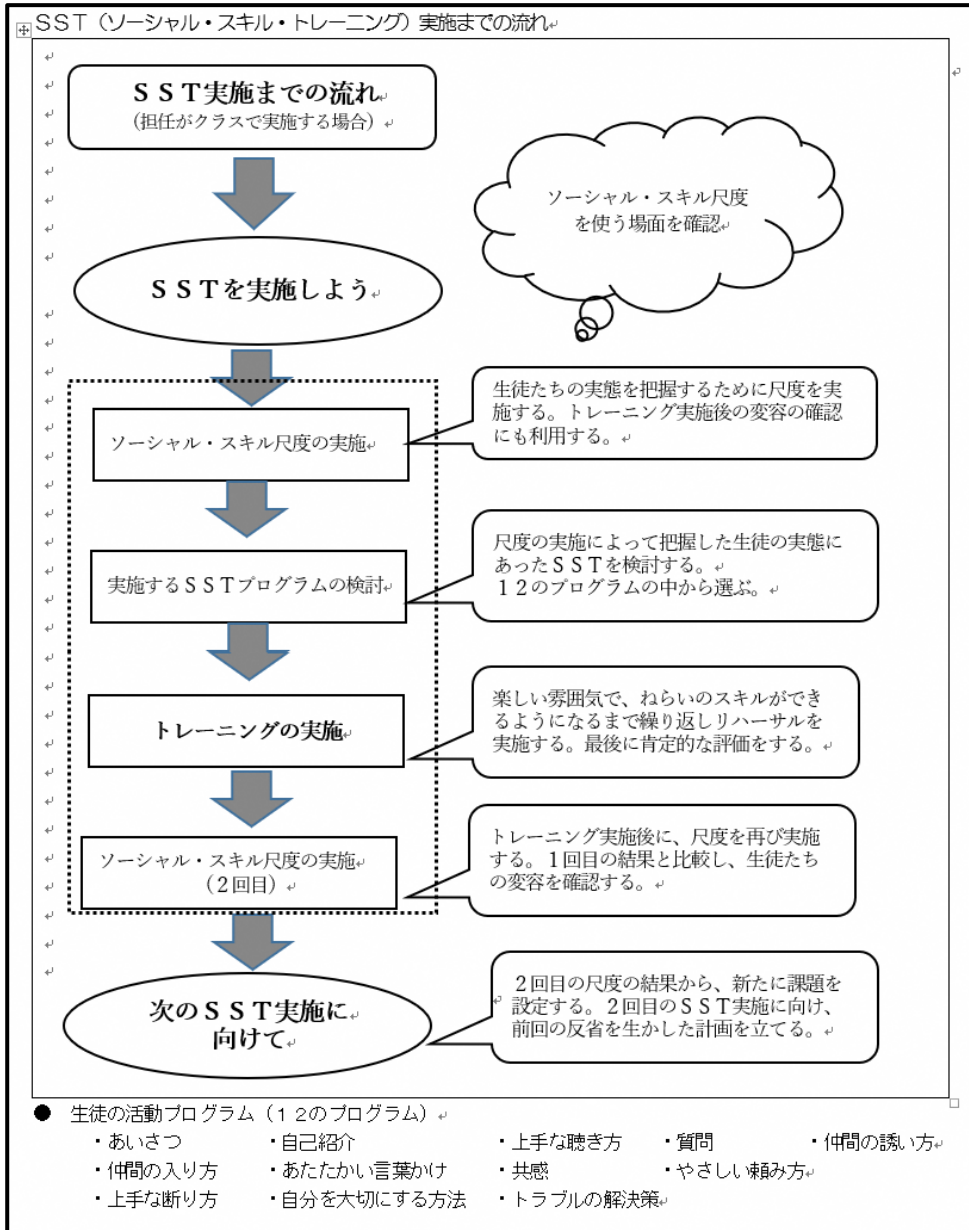
3 今年度の実践（活動報告）

(1) ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）：令和3年10月21日（木）実施

「SOSの出し方に関する教育」の実践において、社会で人と人とが関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身につける訓練として、ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）を本校では、今年度初めて取り入れた。

ソーシャル・スキル・トレーニングを効果的に実施するためには、生徒のスキルの獲得状況をしっかり把握した上で取り組む必要がある。そのために、他者との関わりを主とする「配慮スキル」と自らの気持ちを伝えることを主とする「主張スキル」に類別し、生徒の現状を成果測定（アセスメント）するソーシャル・スキル尺度の活用を試みた。ソーシャル・スキル・トレーニング尺度（アンケート）を活用し、質問項目に対して、生徒の回答を得ることで生徒のスキルの獲得状況を把握することができる。クラスの生徒の状況によって、ソーシャル・スキル・トレーニングの活動内容を変更し、発達・課題に応じた実践的な12のプログラムの中から選択し実施をした。12のプログラムは、生徒の発達段階に応じた実践的なトレーニングプログラムとして、3段階にステップを分け、ソーシャル・スキル・トレーニング活動を実践した。

【SST実施までの流れ】



ソーシャル・スキル・トレーニング尺度の利用 (配慮と主張)

③ ソーシャル・スキル・トレーニング尺度の利用

尺度は、2スキルを把握するための観点として「配慮」「主張」の2つを活用している。

配慮	相手の状況を理解し、気配りするスキル
主張	自らのことを正しく伝えるためのスキル

● 質問項目は、「配慮」「主張」それぞれ8項目、計16項目。  
● 生徒が、自己評価する。  
● 質問項目の評価は、5 (あてはまる) 4 (ややあてはまる) 3 (どちらともいえない) 2 (あまりあてはまらない) 1 (あてはまらない) の5段階で行う。  
● 尺度の得点は、「配慮」「主張」とも8点から40点までの範囲。  
● ソーシャル・スキルの理解は、2尺度(2観点)の得点をもとに、2次元で行う。

☆ 生徒のソーシャル・スキルの状況を把握する

ソーシャル・スキルは、広範囲にわたり、その状況の全体を把握することは難しい。  
また、教師がクラスの生徒のスキルを把握しようと考えたとき、数多くのスキルの一つ一つについて状況を把握することは大変なことである。この尺度では、「配慮」「主張」の2つの観点をもとに、それぞれの量や2つのバランスにより、スキルを全体的に捉えることができやすい。

④ 《 ソーシャル・スキル尺度 》 12月実施 熊本県立熊本商業高等学校 ( )年( )組( )号 氏名( )

このアンケートは、人のかかわり方に関する意識や行動について調べようとするものです。  
正しい答え・まちがった答えというものはありません。成績にも関係ありませんので正直に答えてください。  
また、深く考えすぎず、今のありのままの考えを答えてください。  
前回のアンケートと比較させていただきます。

質問項目	1	2	3	4	5	配慮	主張
1 友だちが元気がないときは、励まします。	1	2	3	4	5		
2 相手に聞こえる声で話します。	1	2	3	4	5		
3 何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。	1	2	3	4	5		
4 友だちに、自分の考えを言います。	1	2	3	4	5		
5 クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。	1	2	3	4	5		
6 人の意見に左右されずに、自分の考えを言います。	1	2	3	4	5		

配慮と主張の平均点とバランス

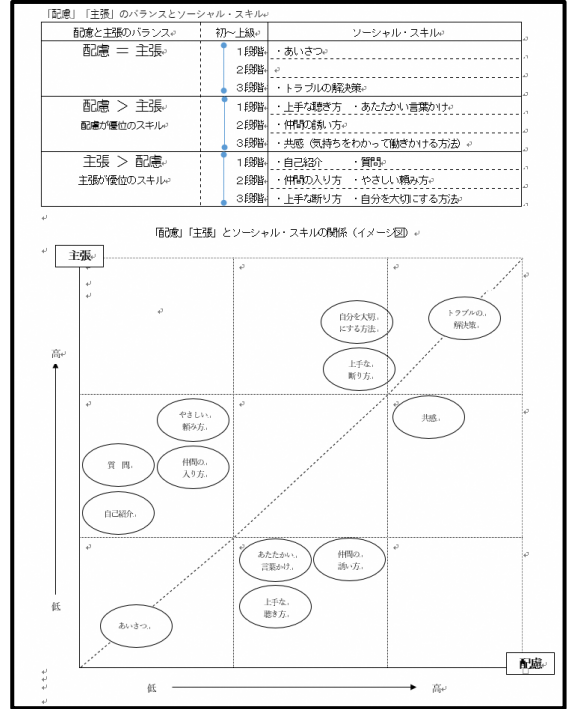
ソーシャル・スキル・トレーニング12プログラム

③ 「配慮」「主張」の平均点やそのバランス（スキルの獲得状況）をもとに、下の表から、生徒の活動プログラムをクラス担任が選ぶ。

④ 「配慮」「主張」のバランスとプログラム

「配慮」「主張」のバランス (スキルの獲得状況)	「配慮」の平均点が「主張」 の平均点より高い場合	「主張」の平均点が「配慮」 の平均点より高い場合
予想されるクラス の雰囲気	・おだやかな ・あたたかい ・おとなしい など	・明るい ・積極的 ・思いやり欠缺する など
目指すクラス	・明るいクラス ・積極的なクラス など	・落ち着いたクラス ・思いやりのあるクラス など
プログラムの選び方の ポイント	「主張」を高めるプログラム このクラスは「配慮」の方が高い ため、バランスをよくするため、 「主張」を高めるはたらきかけ をする。	「配慮」を高めるプログラム このクラスは「主張」の方が高い ため、バランスをよくするため、 「配慮」を高めるはたらきかけ をする。
実施するのがよ いと考えられる プログラム	あいさつ	
	1段階	・自己紹介 ・質問 ・上手な聞き方 ・あたたかい言葉かけ
	2段階	・仲間の入り方 ・やさしい頼み方 ・仲間意識の入り方
	3段階	・上手な断り方 ・自分を大切にすること ・共感（気持ちをわかって働きか ける方法） ・トラブルの解決策

※ プログラムを選択する際は、校種による「配慮」「主張」のバランスの差を考慮する。



【ソーシャル・スキル・トレーニング尺度（アンケート）】 9月上旬と12月中旬：2回実施

配慮と主張 のクラス平均の例 （各40点満点）

9月【配慮】 9月【主張】 12月【配慮】 12月【主張】

37	2939	名前	39	32	38	29				
38	2940		34	23	36	33				
39	2941		33	26			配慮平均	主張平均	配慮平均	主張平均
40	3101		38	33	37	30	35.5	31.5	37.3	32.6
41	3102		25	24	25	24	(9月上旬)		(12月中旬)	
42	3103		37	32	38	33				
43	3104		34	22	32	19				
44	3105		35	35	37	36				
45	3106		32	28	31	27				
46	3107		30	24	39	25				
47	3108		38	34	38	34				
48	3109		33	30	38	35				
49	3110		35	30	39	32				
50	3111		35	35	40	34				

全学年平均 35.1点 30.7点 35.4点 31.2点

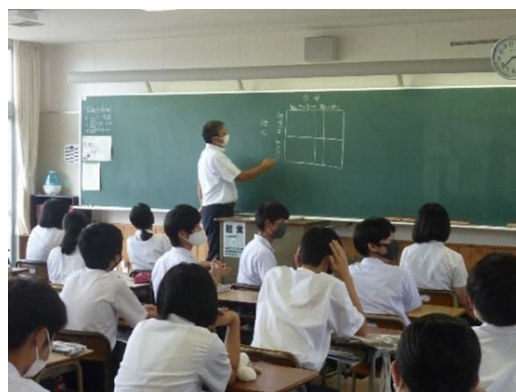
【ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）授業を終えて】

ソーシャル・スキル尺度（事前・事後アンケートデータ）でも評価が高いことがわかり、多くの本校生徒は身に付けていることがあらためてわかった。

また、SSTのプログラムを実施していただいたクラス担任の感想や意見からも次年度のSSTだけを特化した授業をLHR等で設ける必要がないことがわかった。SSTの内容を含むストレス対処プログラムの実施を検討する。



本校では、生徒と生徒、先生と生徒が肯定的印象を伝えあう活動を通して、相手の人格を認め、自分自身を大切にする「怒」のこころ「ストレス対処プログラム」の継続が望ましいことがわかった。



参考引用文献： 渡辺弥生著 「ソーシャル・スキル・トレーニング」 日本文化科学社  
埼玉県 教育委員会

※「ソーシャル・スキル・トレーニング」関係資料は、後掲資料1 p.18～

## (2) 学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート（年2回）

「SOSの出し方に関する教育」研究指定校である熊本県立玉名工業高等学校で実施されたアンケート項目をもとにアンケート16項目を作成し、9月と1月に実施した。

アンケート実施のねらいとしては、生徒たちの環境（地域や生活環境、教育活動等）の違いによって、アンケート結果が違ってくるのか、同じなのかを検証できると考えアンケートを作成した。

また、アンケートの質問文は、回答をする人が質問（問い）に迷わないようにするために、「できますか」等の一般的な問いかけではなく、肯定的であることを前提とした「ある」「できる」などの表現にした。（問16～問17の2問は、本校独自の質問内容）

質問内容は、「関係性＝SOS」「自分は価値のある人間」「自尊感情・自己主張・自己決定」「学校」の4つの分野をもとに作成している。

### 【アンケート実施方法】

- ① アンケート対象 : 本校生徒（1～3年生まで） 約1,100名
- ② アンケート実施時期 : 1回目（9月上旬）及び2回目（1月中旬）（年2回）
- ③ アンケート回答方法 : Microsoft Forms 及び アンケート用紙
- ④ アンケート回答人数 :
 

1回目 : 1年	364名	2年	361名	3年	361名	（計1,086名）
2回目 : 1年	356名	2年	351名	3年	354名	（計1,061名）
- ⑤ アンケート質問項目 : 16項目



※次ページは、アンケート質問項目（2回目実施したもの）を掲載しています

## 学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート（実施の例）

学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート（16項目の質問）を年2～3回実施し、皆さんの変容（姿や形、心が変わること）を検証していきます。  
ご協力を宜しくお願いします。



### アンケート実施方法

- 1 アンケート対象 : 全校生徒（1～3年生まで）約1,100名
- 2 アンケート回答期限 : 1月21日（金）まで
- 3 アンケート回答方法 : Microsoft Forms  
この用紙に記入し、右上のQRコードをスマートフォン等で読み込み、Microsoft Forms を利用して回答をお願いします。この用紙も提出して下さい。

質問1 学年・組・出席番号の4桁の数字を半角で入力して下さい。 例) 3942

質問2 氏名を入力して下さい。 例) 熊商次郎

NO	質問内容	回答
3	毎日の生活に充実感がある。	はい いいえ
4	不安や悩みを抱えた場合、ストレスを解消する方法を知っている。	はい いいえ
5	つらい思いをしたとき、相談できる人がいる（相談方法がある）。	はい いいえ
6	誰かが困っているときに助言や手助けをすることができる。	はい いいえ
7	周囲の人にほめられたり、認められたりしたことがある。	はい いいえ
8	人のために役に立っていると思うことがある。	はい いいえ
9	友達と協力して物事に取り組んでいる。	はい いいえ
10	周囲の人をほめたり、認めたりしたことがある。	はい いいえ
11	自分のことが好きだ。	はい いいえ
12	得意なことや自分の良いところを生かすことができる。	はい いいえ
13	自分のことを大切にしている。	はい いいえ
14	自分の中にはいろいろな可能性がある。	はい いいえ
15	学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思う。	はい いいえ
16	本校の販売実習「熊商デパート」を通して地域や人の役に立ったと感じたことがある。	はい いいえ
17	商業の授業や資格取得（商業関係の検定）は、社会の役に立つと思う。	はい いいえ
18	社会人になってから人の役に立つ仕事ができるようになりたいと思う。	はい いいえ

【実施・検証】

① 学校間比較（SOS 研究指定校）でわかったこと

●9項目でアンケート結果は、他校で実施された傾向とほぼ同じような結果が見られた。

質問番号	質問内容	熊本商業高校	
		2021年9月	2022年1月
3	毎日の生活に充実感がある。	90.2%	93.3%
5	つらい思いをしたとき、相談できる人がいる。	94.9%	96.5%
6	誰かが困っているときに助言や手助けをすることができる。	96.9%	97.3%
9	友達と協力して物事に取り組んでいる。	97.0%	97.8%
10	周囲の人をほめたり、認めたりしたことがある。	98.8%	98.7%
11	自分のことが好きだ。	69.1%	75.4%
12	得意なことや自分の良いところを生かすことができる。	80.8%	84.8%
15	学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思う。	96.2%	97.1%
18	社会人になってから人の役に立つ仕事ができるようになりたいと思う。	98.5%	98.8%

●アンケート結果の相違点：

質問番号	質問内容	熊本商業高校	
		2021年9月	2022年1月
7	周囲の人にほめられたり、認められたりしたことがある。	97.1%	98.1%
8	人のために役に立っていると思うことがある。	82.5%	85.2%
13	自分のことを大切にしている。	94.0%	95.0%

② アンケート全体から考えられること

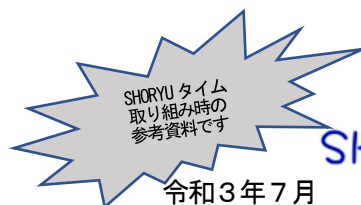
質問番号	質問内容	熊本商業高校	
		2021年9月	2022年1月
11	自分のことが好きだ。	69.1%	75.4%
	内訳 1年	67.3%	71.1%
	2年	64.8%	70.7%
	3年	75.1%	84.5%
16	本校の販売実習「熊商デパート」を通して地域や人の役に立ったと感じたことがある。	74.4%	94.5%
	内訳 1年	46.7%	95.5%
	2年	82.0%	90.9%
	3年	94.7%	97.2%

質問7の「自分のことが好きだ。」では、「はい」と回答した割合が低く、自己肯定感や自己有用感をさらに高められるようにしなければならないことがわかった。

また、質問16では、販売実習「熊商デパート」が地域や人の役に立てるという自己有用感を高められる教育活動であることをあらためて確認することができた。

※詳細は、後掲資料3 p.47～

### (3) SHORYUタイム (SNS : LINE相談)



SHORYUタイム

#### ① SNS相談の取り組みの目的

平成21年から令和元年の自殺者全体の総数が減少傾向にあった中でも、児童生徒の自殺は後を絶たず、極めて憂慮すべき状況が続いており、また、人の目の届きにくいSNSを利用し、自殺願望を投稿するなどした高校生等の心の叫びに付け込んで、言葉巧みに誘い出し殺害するという極めて卑劣な事件も発生している。



令和2年においては、警察庁・厚生労働省の自殺統計によると、自殺者全体の総数は前年から912人増加して21,081人となるとともに、児童生徒の自殺者数は499人で、前年(399人)と比較して大きく増加、そのうち女子中高生の自殺者数は209人で、前年(127人)と比較して約1.7倍となっています。18歳以下の自殺は、学校の長期休業明けにかけて増加する傾向がある。

※文部科学省からの引用

本校における早期発見に向けた取り組みとして、アンケート調査・教育相談(SC面談)等を実施し、悩みや困難を抱える生徒の早期発見に努めている。新たな取組として、SNSを利用した相談(カウンセリング)を期間限定で試験的に実施した。「24時間子供SOSダイヤル」をはじめとする電話相談窓口や、SNS等を活用した相談窓口が開設されているので、その利用も生徒に促した。

「SHORYUタイム」の名称は、本校のマスコットキャラクターのSHORYUくと相談時間をかけあわせて、名称を決定した。

#### ② SNS相談(カウンセリング)の方法

##### ア SNS相談(カウンセリング)利用アプリ

LINE(10代においてはLINEの利用率が群を抜いて高く、利用率は8割を超えている)

##### イ 実施期間及び時間(年間で4回実施した。試験的な運用期間)

2021年 8月30日(月)~2021年 9月 3日(金):第1回  
17時00分~20時00分

※ 長期休業明けでさらに実施時間は、中高校生の自殺者が一番多い時期および時間帯に実施

2021年10月21日(木)~2021年10月29日(金):第2回  
18時00分~21時00分

※ 2学期当初の分散登校終了後、通常登校に戻った時期

2021年11月30日(火)~2021年12月 6日(月):第3回  
18時00分~21時00分

※販売実習「熊商デパート」実施前後の時期

2022年 2月 8日(火)~2021年 2月14日(月):第4回  
17時00分~20時00分

※学年末考査が始まる時期

##### ウ SNS相談(カウンセリング)対象者

本校生徒全学年 約1,100名 匿名で対応(学年と性別)

##### エ SNS相談(カウンセリング)担当者

教育相談部で担当

##### オ SNS相談(カウンセリング)の機材

パソコンにLINEをインストールして(パソコン利用)、相談(カウンセリング)実施



カ SNS相談（カウンセリング）情報提供時期（生徒対象）

「教育相談だより」およびカードの発行等

SHORYUタイム（SNS相談） LINE友だち登録 のQRコードを配付

SHORYUタイム



QRコードサンプル

キ SNS相談振り返り：相談内容を検証する（組織で対応）

### ③ LINE 相談のメリットとデメリット（一般的な視点から）

#### 【メリット】

- ア 簡単にアクセスできるので、相談しやすい
- イ 心理的な匿名性が高いので、自己開示しやすい
- ウ 文字で残るので読み返して考えられる
- エ 写真のやりとりが簡単にできる
- オ 相談者のこれまでの相談履歴が参照できる
- カ 対応に困ったとき相談員が他の相談員と協力して対応できる
- キ ウェブ上の資料を用いながら相談ができる
- ク こちらから積極的に情報発信ができる

SHORYUタイム



#### 【デメリット】

- ア 簡単にアクセスできるので動機づけの低い相談者が多くなりやすい
- イ 心理的な匿名性が高いので、作話やひやかしがなされやすい
- ウ 相談者には相談員の性別も年齢もわからないのでイメージしにくい  
（今回のSNSカウンセリングは、担当者の名前等の情報を提供）

学校の職員ということで、相談しにくい部分もある

- エ 非言語情報が得られない
- オ 言語能力が低い人の場合、相談が深まりにくい



### ④ LINE相談の実践から

- ・中高生のLINE相談へのニーズは非常に高い
- ・LINEでの相談は有効である
- ・LINEに適したカウンセリングの技術が必要である
- ・SCとのカウンセリングに直接繋げることは難しい 1月下旬 ある生徒の筆箱の中（カードを入れてました）
- ・相談への敷居が非常に低く、なかなか人に言えないことが打ち明けやすい（最大の特徴）
- ・対面や電話での相談にはなかなかアクセスしてこないような、幅広い相談者と繋がることのできる

※比較的早期の段階での相談を促進し、悩みの悪化を予防するものと期待される。

※しかし、SNSカウンセリングは、表情も見えず、声も聞こえない、ほぼ文字だけのやり取りであるため、表情や声によるサポートや励ましを与えることもできない。多くのSNSカウンセリング（相談）は、SNS上のやり取りで完結するものが多いが、状況改善のためには電話相談、対面相談など身近な相談の窓口へ繋ぐことが必要な場合がある。

※今回の本校のSNS相談は、LINE上だけで課題を抱えた生徒の悩みや相談などをすべて解決することを目標（目的）にするのではなく、生徒が身近にいる信頼できる大人にSOSを出すことのできる道具（ツール）のひとつとして位置付ける。

SHORYUタイム カード→  
全生徒に配付



**長野県のデータより「ひとりで悩まないで@長野」** (参考資料 データ) 日本で最初に SNS (LINE) 相談開始

相談アクセス数 (期間全体) : 2, 633件  
 相談アクセス数 (時間内) : 1, 579件 1日あたり112件  
 相談対応数 : 547件 (相談員10名で対応)  
 対応できた相談者の1人あたりの相談回数 : 1.4回  
 1件あたりの平均相談時間 : 54分  
 1件あたりの平均吹き出し数 : 73回  
 1件あたりの最大吹き出し数 : 606回

●電話相談 (メール相談含む) およびSNS相談 (LINE) の比較

1日あたりの電話・メールでの相談件数	1日あたりのLINEでの相談
対応数 : 0.7件	アクセス数 112.8件 対応数39.1件

●相談の男女比

男 : 27% 女 : 59% 不明 : 14%

●相談件数の学年比 (中高生)

中学1年 : 13% 中学2年 : 10% 中学3年 : 9%  
 高校1年 : 25% 高校2年 : 13% 高校3年 : 9% 高校学年不明 : 1%  
 不明20%

●相談時間

30分以上1時間未満 : 相談件数の 3分の1  
 1時間を超えない相談は、相談件数の全体の3分の2  
 3時間を超える長時間の相談は約3%ある

●相談内容

- 交友関係・性格の悩みに関する事 : 22%
- 恋愛に関する事 : 15%
- 学業・進学・進学の悩み : 9%
- いじめに関する事 : 8%
- 学校・教育の対応に関する事 : 8%
- 家族に関する事 : 5%
- 性・身体のこと : 2%
- 相談終了後の御礼 : 1%
- 不登校に関する事 : 1%
- その他「雑談」「相手側の都合、終了時刻間際などのため不明」など : 14%
- 無応答 : 10%
- ひやかし : 5%

(参考資料)

- ◆長野県「ひとりで悩まないで@長野」2017年9月10日から23日までの2週間、4時間(17時~21時) 県下全域の中高生約12万人を対象としてLINE相談
- ◆滋賀県大津市「おおつっこ相談LINE」2017年11月1日~2018年3月末までの5か月間 17時~21時 大津市内 3校の中学生約2,500人対象 → 2018年1月からは全中学校18校の生徒9,100人が対象

SNSカウンセリング に関する研究・チーム等

- ◆京都大学学生総合支援センターセンター長 教授 杉原保史 先生  
 公益財団法人関西カウンセリングセンター こころの相談室長 宮田智基 先生

『SNSカウンセリング・ケースブック』出版記念ウェブイベント

<https://www.youtube.com/watch?v=VRWEa7YIPjY>



(4) ストレス対処プログラム (全学年：年3回)

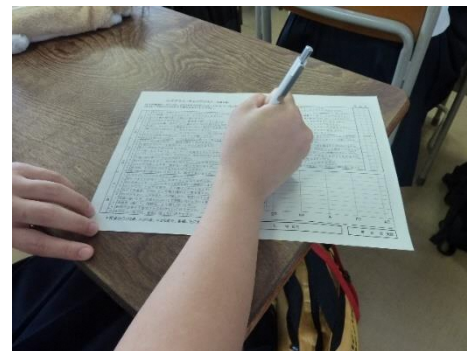
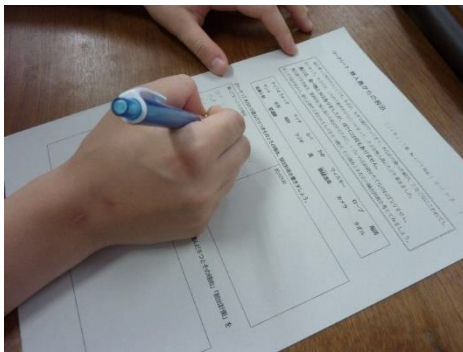
本校では、ストレス対処プログラムを平成28年度から実施している。教育相談部から提案された題材をもとに生徒たちが学校生活の中でストレスを感じる事が少なくなるように自己肯定感を高め、自他ともにお互いを大切に、怒(おもいやり)の心を持ち、良好な人間関係の構築を目指して実施している。

ストレス対処プログラムは、年間3回の実施だが、生徒が生活上の困難・ストレスに直面したときの対処方法を身に付けるための教育のひとつである。友人関係のトラブル、学業をはじめ進路、様々な生活上の困難・ストレスに直面した時に、それらに適切に対処する方法(態度や行動)を生徒たちが身に付けることは、いじめ・不登校をはじめとする生徒指導上の諸問題の「SOSの出し方に関する教育」の予防の観点からも大切である。それらの態度や行動を、一度ではなく、折に触れ思い出したり実感したりすることは、生徒たちが将来、直面する可能性のある様々な危機に、適切に対処するための土台づくりにもつながるものと考え、取り組んでいる。

	1 学年	2 学年	3 学年
1 学期	プログラム① サイコロトークング プログラム② エゴグラム	プログラム⑤ Who am I?	プログラム⑧ 無人島からの脱出
2 学期	プログラム③ 二者択一	プログラム⑥ 私の四面鏡	プログラム⑨ 悩みを聴く力
3 学期	プログラム④ アンガーマネジメント	プログラム⑦ アサーション	

構成的グループ・エンカウンターは、「ふれあいと自己発見の促進」とともに「自己成長」をねらいとしている。自分と他者とのかかわり方(他者との関係性)が大切であり、「SOSの出し方に関する教育」の土台となっている。エクササイズを介して自己開示、自己開示を介してリレーションをつくること2つのプロセスを同時に実施している。

※「ストレス対処プログラム」公開授業令和4年2月3日実施 関係資料は、後掲資料2 p.34～



1 学期：3 年生「無人島からの脱出」の様子

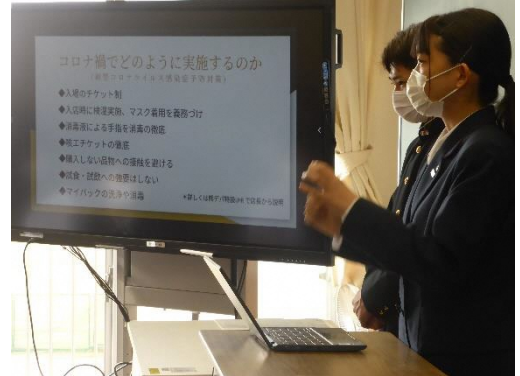
(5) 販売実習 第34回「熊商デパート」

本校の教育の柱である販売実習「熊商デパート」を通して、販売実習に関わる情報共有や各部の業務内容の把握により、組織として他者の業務に目を向けて、援助できる協働性や共感力、課題探究能力を磨き、さらに自己肯定感を高めていくことができる。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため、来場者を保護者等に限定し、「熊商デパート」を12月4日(土)、12月5日(日)に実施することができた。感染症予防に努めながらの実施であった。



販売実習の6ヶ月前からの取り組み



販売実習「熊商デパート」の主な事前研修の内容：

- ・協賛企業説明会(例年6月)、店長会議(毎週水曜日)
- ・部長会議(総務、仕入、販売、経理、電算の5つの部 毎週木曜日)
- ・事業者による招聘授業
- ・全校生徒による接客八大用語唱和(10月から毎朝SHR時)今年度は11月より
- ・社員総会、熊商デパート特設LHRなど

【販売実習「熊商デパート」を終えて：検証】

販売実習「熊商デパート」の準備が本格的始まった頃(9月)と販売実習終了後(1月)に「学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート」を実施し、質問16の結果から、生徒たちの販売実習に対する意識や業務に対する協働性や共感力が高まり、個々のクラスの仲間同士としての結束力を高める機会となったことがわかる。学校生活の中で人とつながり合うことで、SOSを言える関係(環境)ができつつある。

質問事項16 “本校の販売実習「熊商デパート」を通して地域や人の役に立ったと感じた”

74.4% → 94.5% に大きく向上し、自己有用感が得られている結果となった。

熊本商業高校では、販売実習「熊商デパート」を通して、自己有用感が向上する。

→ 自己肯定感の向上に繋がる。

●熊商デパート 生徒自己評価データ(回答数：1,059名)5段階評価 (2021年度)

自己評価	内容	評価5	評価4
	終わった今、充実感や達成感はありますか。	78.8%	17.7%
	自分の仕事に責任と誇りをもってできましたか。	78.7%	18.3%
	この経験は、今後の学校生活に繋がりますか。	73.7%	20.3%
	この2日間で、自分の成長を実感できますか。	63.7%	26.9%
実践力	(上位)：協働・共同力 20.1%	対応力 18.7%	コミュニケーション力 17.4%
			業務遂行力 15.4%

熊商デパートの生徒感想(一部) 第34回熊商デパート各種アンケートより

- 協力の大切さや達成感をすごく感じた。熊商生として最高の熊商デパートをつくることができ良かった。(3年)
- 熊デバが近づくにつれ、クラスメイトの対応力の高さや積極性など新たな一面を知ることができた。(3年)
- クラスみんなの協力する姿勢、自分を支えてくれた人の大切さ、たくさんの方々に感謝の気持ちを伝えたい。(2年)
- クラスの絆が深まったと感じた。(1年)
- 朝のミーティングで店長や各部長からの反省点をどのように改善すべきか話し合ったのがよかった。(1年)

(6) その他の取り組み

情報共有 (収集)

① 1 学年保護者の気づきアンケート

3 月末の新生説明会時に保護者に「保護者の気づきアンケート」を配付し、入学式当日に新入生 (子ども) にかかわる情報を収集し、1 年生担任に情報提供することができた。入学当初から生徒を理解し、新入生が安心して学校生活をスタートできるように努めた。

主な項目として、「お子さまについて」「これまでのお子さまの成長の中で、伝えたいこと」「相談している専門機関 (病院等)」「24 項目の気づきチェックシート」「SC への相談希望」の内容である。生徒自ら「SOS」を出せるかどうかなどもチェック項目の一部に取り入れた。保護者の気づきアンケートの回答により、SC との面談に繋ぐこともできた。

令和3年度 1 学年保護者の気づきアンケート

1 年 組 号 生徒氏名 <small>(姓・名は本記入で結構です)</small>	出身中学校	中学校
保護者氏名	記入者名 (続柄)	

このアンケートは本校が入学の早い段階からお子さま1人ひとりをしっかり理解し、お子さまの笑顔あふれる学校生活につなげるためのものです。本人が困らないため、より豊かな生活を送るために作成するものであり、関係者以外に情報が漏れることはありませんので、ありのままにお答えいただけますようお願いいたします。

記入事項がない場合でも、記名をされ、必ず提出をお願いします。封筒に入れ、嚴封のうえ、入学式の日に担任(HR)にて提出書類と一緒にご提出ください。なお、特に必要な場合は、個別に話をさせていただきます。

**1 お子さまについて** 保護者が感じられることをお書きください。

長所	
得意なこと・好きなこと	
今、夢中になっていること	

**2 これまでのお子様の成長の中で、私たちに伝えたいことがあればご記入ください。**  
例) 運動が苦手、体育の授業を嫌がる 友達との関係で悩むことが多い 短気なところがあるが、優しく声をかけると落ち着く

**3 相談している専門機関(病院、療育機関など)があればご記入ください。** ※有無に○をつけてください

無 ・ 有 { 専門機関名称: \_\_\_\_\_ }

診断名があればお知らせください { 診断名: \_\_\_\_\_ }

療育手帳等があればお知らせください

①療育手帳 無 ・ 有 (取得 年 月)

②身体障害者手帳 無 ・ 有 (取得 年 月)

③精神障害者保健福祉手帳 無 ・ 有 (取得 年 月)

(裏面にお進みください)

**4 気づきチェックシート**  
お子様状況について、以下のチェック欄の「あてはまる」「少しあてはまる」「ほとんどあてはまらない」「あてはまらない」のいずれか一つに○をしてください。

チェック項目	チェック欄			
	あてはまる	少しあてはまる	ほとんどあてはまらない	あてはまらない
例) 忘れっぽい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1 聞き間違いがある 例) 「知った」を「行った」と聞き間違える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 相手の気持ちを考えずに発言したり、行動したりする (思いっつきままに話してしまう)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 本を読むことにも時間がかかる(苦手である)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 書くことにも時間がかかる(苦手である)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 計算にも時間がかかる(苦手である)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 不器用である(細かい作業が苦手である)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 細かいところで注意を払わない (掃除に欠陥がある)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 ぞわぞわ感、または震っているときにもじもじする (座っているべきときに寝を揺れてしまう)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 活動に対して集中が途切れやすい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 言うことを聞かないと注意を受けることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 特定の物事に強く興味にだわりを示す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 怒った時に落ち着くまでに時間がかかる(怒りっぽい)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 学校からの配付物・連絡はしっかりとれる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 忘れ物が多い 忘れっぽい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 音や匂いに敏感である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 責任感(正義感)は強いほうである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 努力を惜しまないタイプである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 友だちから相談をうけることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 ストレスに敏感である(体調に表れやすい)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 家庭の中ではよく話す(学校・部活・友人など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 スマホやゲームについての家庭内のルールがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22 自分で「SOS」を出せる(悩みなど話せる)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
23 進路目標(将来の夢、なりたい職業)がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
24 自分の良さを自分でよく知っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**5 SC(スクールカウンセラー)への相談**  あり  なし  どちらかに○をしてください。

ご協力ありがとうございました。お子さまのことで気になることがありましたらいつでもご相談ください。  
問合せ先: 熊本商業高等学校 教育相談部

② 中学校からの情報提供 (4 月当初)

毎年、年度末に新入生を対象に中学校に対して情報提供を依頼し、入学式前の特別な配慮を要する生徒理解職員研修を実施した。  
(対象: 新入生のみ)

③ 特別な配慮を要する生徒理解職員研修

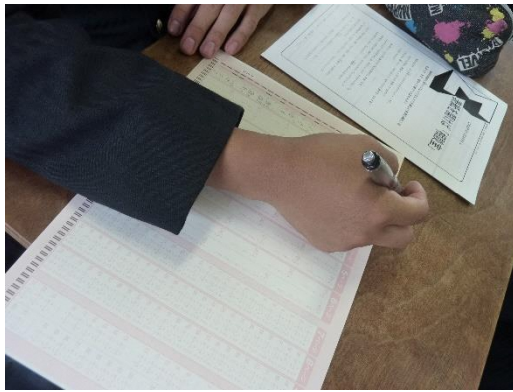
各学期に 1 回、特別な配慮を要する生徒理解職員研修を実施。  
(対象: 全学年)



④ 生徒理解のための総合調査 (シグマ検査の実施: 4 月中旬) と職員研修 (5 月中旬)

シグマ検査は、個々の生徒が抱えている悩みやその背景が多面的にわかり、悩みやつまづきなどの移り変わりを把握することができる。また、生徒の心の支えがわかりやすいものとなっている。特に学習の遅れや意欲低下、進路面の不安や行きづまり感、自己否定感やストレスなど、親子関係や学校外での対人関係など生徒の現状やSOSのサインを早く把握できやすい内容となっている。この検査結果をもとに、毎年5月に各学年の担任を少人数のグループに分けて、職員研修を実施している。

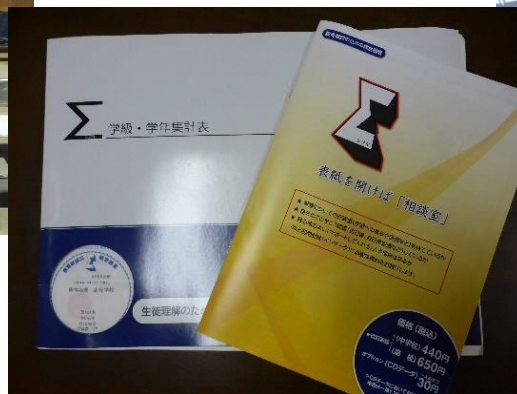
それぞれの学級一覧表をもとに気になる生徒への接し方や対応の仕方など心理検査士を招いて学ぶ研修と位置づけている。



4月中旬に実施。生徒たちの新しい学校生活環境の不安や悩み等を把握することができる。



小グループによる職員研修



気になる生徒のデータをもとに心理検査士へ気軽に質問することができる。

※今年度、熊本県内での「生徒理解のための総合調査」を利用されている高校は6校と聞いている。

⑤ 面談週間の実施（寮生面談も含む）

年間2回程度、面談週間をつくり担任と生徒が面談する時間を確保している。残念ながら2学期は、分散登校になったために実施できなかった。

⑥ 開放した環境の教育相談室

今年度からできるだけ教育相談室を開放するために常に相談室を使用していない時は、教育相談室のドアを開け、相談したい生徒が入りやすくしている。（年間を通して、ドアを開放）



⑦ 商業関係の資格取得の学習

●全国商業高等学校協会主催検定取得状況（三種目以上1級取得者数）

令和2年度：189人（全国順位7位）

令和元年度：216人（全国順位4位）

平成30年度：205人（全国順位6位）

平成29年度：179人（全国順位11位）

●高度資格取得状況〔簿記〕〔情報〕

日商簿記1級、全経簿記上級、簿記論、応用情報処理技術者、基本情報処理技術者 等

4 年間計画

月	日	曜	校内の行事・取組	内容/主査	対象学年	職員
4	7	水	特別な配慮を要する生徒理解職員研修①	特別支援教育	1学年	○
	15	木	仲間づくり LHR	教育相談部	1学年	
	22	木	情報モラル講演会	生徒指導部	全学年	
	28	水	シグマ検査	教育相談部	全学年	
5	6	木	体育大会	体育科	全学年	
	10	月	寮生面談①	教育相談部	該当者	
	20	木	特別な配慮を要する生徒理解職員研修②	特別支援教育	全学年	○
	20	木	心とからだの健康観察①	教育相談部	全学年	
	20	木	SOS推進委員会①推進体制・内容周知	SOS推進委員会		
	21	金	育友会総会 (SCの紹介：保護者)	総務部 保護者へ周知	全学年	
	24	月	面談週間	教務部/教育相談部	全学年	
	24	月	寮生面談②	教育相談部	該当者	
	24	月	シグマ検査による生徒理解職員研修	教育相談部		○
	24	月	熊商デパートタウンミーティング①	熊商デパート実行委員会	該当者	
	31	月	人権標語作成依頼 (各クラスの人権委員)	人権教育推進委員会	全学年	
6	3	木	進路LHR	進路指導部	全学年	
	3	木	熊商デパート職員会議	熊商デパート実行委員会		
	9	水	公開授業① (研究授業含む)	教務部	全学年	
	10	木	人権教育LHR (3学年)	人権教育推進委員会	3学年	
	11	金	SOS推進委員会② 研究・取組内容協議	SOS推進委員会		○
	17	木	ストレス対処プログラム①	教育相談部	全学年	
	25	金	熊商デパート協賛企業説明会	熊商デパート実行委員会	クラス店長	○
	30	水	心のアンケート①	生徒指導部	全学年	
		書面にて	学校運営協議会① 研修内容周知			○
7	1	木	人権教育LHR (2学年)	人権教育推進委員会	2学年	
	1	木	進路LHR (3学年)	進路指導部	3学年	
	15	木	いじめ問題防止対策委員会 (SC含) ①	1学期の振り返り		○
	15	木	進路LHR (1・2学年)	進路指導部	1・2学年	
	16	金	SOS推進委員会③1学期の振り返り	SOS推進委員会		○
8	30	月	SOS推進委員会④2学期の取組み	SOS推進委員会		○
			インターンシップ (夏季休業中)	熊商デパート実行委員会	全学年	
9	2	木	人権教育LHR (3学年)	人権教育推進委員会	3学年	
	2	木	進路LHR (1学年)	進路指導部	1学年	
	9	木	心とからだの健康観察②	教育相談部	全学年	
	16	木	心の教育講演会①	保健部	全学年	
	29	水	SOS推進委員会⑤中間報告	SOS推進委員会		○

月	日	曜	校内の行事・取組	内容/主査	対象学年	職員
10	15	金	文化発表会	生徒会	全生徒	
	18	月	寮生面談③	教育相談部	該当者	
	21	木	ストレス対処プログラム②	教育相談部	全学年	
	22	金	芸術鑑賞	図書部	全生徒	
	25	月	熊商デパート社員総会	熊商デパート実行委員会	全学年	
	28	木	人権教育LHR	人権教育推進委員会	全学年	○
	29	金	SOS推進委員会⑥ 公開授業の総括	SOS推進委員会		
			公開授業②(各教科・研究授業 SST 含む)	教務部・SOS推進委員会	全学年	
11	3	水	熊本物産フェア	熊商デパート実行委員会	該当者	
	11	木	熊商デパートLHR	熊商デパート実行委員会	全学年	
	16	火	特別な配慮を要する生徒理解職員研修③	特別支援教育		○
	18	木	SOS推進委員会⑦	SOS推進委員会		○
	25	木	熊商デパートLHR	熊商デパート実行委員会	全学年	
12	4	土	熊商デパート	熊商デパート実行委員会	全生徒	○
	17	金	SOS推進委員会⑧ 2学期の振り返り	SOS推進委員会		○
	23	木	いじめ問題防止対策委員会(SC含)②	2学期の振り返り		○
1	11	火	心とからだの健康観察③	教育相談部	1・2学年	
	13	木	進路LHR(1・2学年)	進路指導部	1・2学年	
	19	水	課題研究成果発表会	商業科	2・3学年	
	20	木	人権教育講演会(1学年)	人権教育推進委員会	1学年	
	28	金	SOS推進委員会⑨ 今年度のまとめ(1)	SOS推進委員会		○
			心のアンケート②	生徒指導部		
2	3	木	ストレス対処プログラム③ 公開授業	教育相談部	1・2学年	
	4	金	校内持久走大会	体育科	1・2学年	
	15	火	特別な配慮を要する生徒理解研修④	特別支援教育		○
	24	木	心の教育講演会②	保健部	1・2学年	
	25	金	SOS推進委員会⑩ 今年度のまとめ(2)	SOS推進委員会		○
			学校運営協議会② 研究成果中間報告			○
3	17	木	いじめ問題防止対策委員会(SC含)③	3学期の振り返り		○
	23	水	SOS推進委員会⑪ 校内成果報告	SOS推進委員会		○
	24	木	SOS推進委員会⑫ 次年度への計画	SOS推進委員会		○

※ 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、分散登校等で当初の予定と異なっている場合がある。  
 上記は当初の予定の内容である。



## 5 研究のまとめ（中間発表）

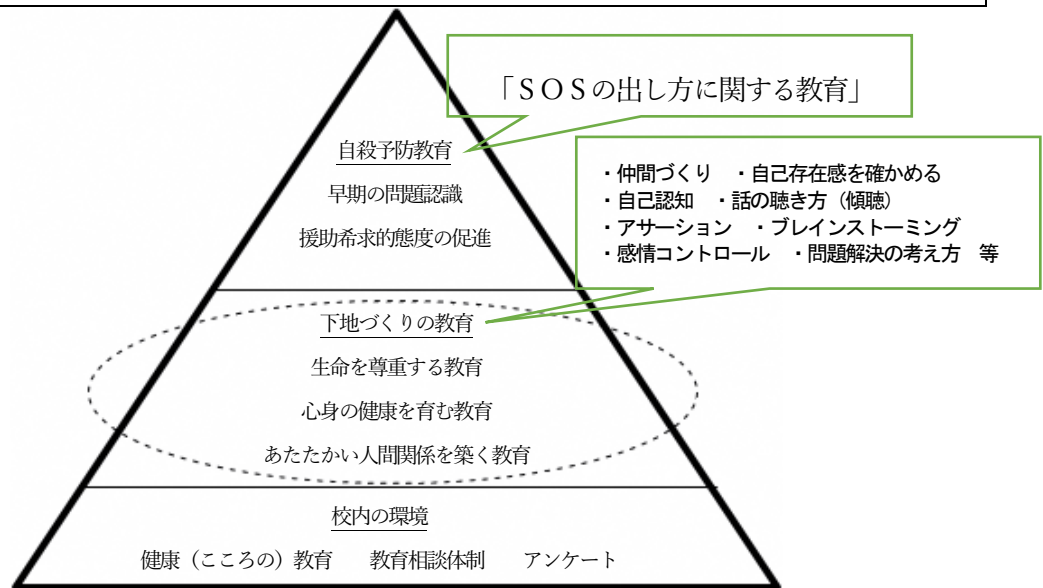
### （1）本校の来年度への「SOSの出し方に関する教育」についての方向性

「SOSの出し方に関する教育」の研究指定校は、南稜高校、済々黌高校、玉名工業高校の取り組んでこられたものを踏まえ、本校の「SOSの出し方に関する教育」の方向性を模索してきた。当初は、自己肯定感や自己有用感が向上すると思われる本校の教育の柱のひとつである販売実習「熊商デパート」に向けての子どもたちの姿を公開授業で参観していただき、12月実施の熊商デパートに来場してもらいたいと思っていた。しかし、公開授業の日程や各部の会議時間などの時間的な隔たりの課題を解決できずに断念した。

生徒理解のための総合調査シグマ検査結果から「相談相手がいない」と回答した本校生徒の割合は、1%未満でシグマ検査を実施したすべての高校の5%と比較しても割合は低い。本校生徒の多くは、友人や家族、教職員等に悩みを相談できる。また、周りの子どもがSOSを出せない子どもの異変を感じ、教職員（担任）に相談し、SCに繋げることができた事例もあった。来年度は、中学校から情報、保護者からの気づきアンケート、シグマ検査、特配の研修、アンケートデータや先生方からの意見、生徒の実情（中学校までいじめを受けてきた等）を知り、子どもたちがSOSを出さなくてもよい校内の環境づくりや教職員の支援の在り方、ストレス解消、良好な人間関係をつくることで、SOSを出さなくてもよい環境にしていくこと、つまり予防に研究・力を注いでいく。

「SOSの出し方に関する教育」により、問題や課題に対して効果ある対処法を選択することで、「社会的スキル」を身につけられる。苦しんでいる子どもが助けを求め力を身に付けさせるとともに人とつながることは安心できることだと気付かせることを目標にしたい。そのためには、子どもとの信頼関係を築き、子どもを受け止められる感性を磨き続けることが必要不可欠になっている。各学校においては、これまで通り、一人ひとりの子どもを多面的に理解し、それぞれの教育活動をブラッシュアップし、実践していただきたい。

「SOSの出し方に関する教育」とは、「子どもが、現在起きている危機的状況、又は今後起こり得る危機的状況に対応するために、適切な援助希求行動（身近にいる信頼できる大人にSOSを出す）ができるようにすること」、「身近にいる大人がそれを受け止め、支援ができるようにすること」を目的とした教育である。苦しい立場に置かれている子どもは、自ら声を上げるのをためらい、なおかつ相談の仕方を知らないなど、状況がますます悪くなり、最悪の場合、自らの命を絶ってしまうことがある。声を出せない子どもが、つらい思いをしているであろうことに、大人も周りの子どもも、ともに危機感を持って向き合う必要がある。



図：自殺予防教育実施に向けての下地づくり

出典 児童生徒の自殺予防に関する資料 文部科学省初等中等教育局児童生徒課

## ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）

### 1 ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）について

「いじめ」「不登校」「中途退学」等、諸問題の解決のために、ソーシャル・スキル・トレーニングを活用し、生徒の不適応状態の解決及び未然防止を図る。また、SOSの出し方に関する教育の取り組みのひとつとしても位置付ける。

※ ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）とは、  
社会で人と人が関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身につける訓練のこと  
良好な人間関係をつくるためのスキル

### 2 ソーシャル・スキル・トレーニング実施にあたって

ソーシャル・スキル・トレーニングを効果的に実施するためには、生徒のスキルの獲得状況をしっかりと把握した上で取り組む必要があります。そのために、他者との関わりを主とする「配慮スキル」と自らの気持ちを伝えることを主とする「主張スキル」に類別し、生徒の現状を成果測定（アセスメント）するソーシャル・スキル尺度の活用を試みる。ソーシャル・スキル・トレーニング尺度を活用し、質問項目に対して、生徒の回答を得ることで生徒のスキルの獲得状況を把握することができる。

クラスの生徒の状況によって、ソーシャル・スキル・トレーニングの活動内容を変更し、発達・課題に応じた実践的なプログラムで実施を試みる。生徒の発達段階に応じた実践的なトレーニングプログラムとして、3段階にステップを分け、ソーシャル・スキル・トレーニング活動を実践する。

ソーシャル・スキル・トレーニング実施の流れについては、以下で説明する。

### 3 ソーシャル・スキル・トレーニング尺度の利用

尺度は、スキルを把握するための観点として「配慮」「主張」の2つを活用している

配 慮 ……………	相手の状況を理解し、気配りするスキル
主 張 ……………	自らのことを正しく伝えるためのスキル

- ・質問項目は、「配慮」「主張」それぞれ8項目、計16項目。
- ・生徒が、自己評価する。
- ・質問項目の評価は、  
5（あてはまる）  
4（ややあてはまる）  
3（どちらともいえない）  
2（あまりあてはまらない）  
1（あてはまらない） の5段階で行う。
- ・尺度の得点は、「配慮」「主張」とも8点から40点までの範囲。
- ・ソーシャル・スキルの理解は、2尺度（2観点）の得点をもとに、2次元で行う。

#### ☆生徒のソーシャル・スキルの状況を把握する

ソーシャル・スキルは、広範囲にわたり、その状況の全体を把握することは難しい。また、教師がクラスの生徒のスキルを把握しようと考えたとき、数多くのスキルの一つ一つについて状況を確認することは大変なことである。この尺度では、「配慮」「主張」の2つの観点をもとに、それぞれの量や2つのバランスにより、スキルを全体的に捉えることができやすい。

## 【 ソーシャル・スキル尺度の実施方法 】

- (1) 実施のねらい : 生徒のソーシャル・スキルの状況を把握する。
- (2) 実施の方法 : 16の質問項目に対して、「あてはまる」から「あてはまらない」の5段階の回答を得ることで、生徒の「配慮」「主張」のスキルの状況を判断する。
- (3) 実施の時期 : ソーシャル・スキル・プログラム実施前と実施後
- ・ソーシャル・スキル・プログラム実施前に尺度を実施し、クラスの状況に応じてプログラムを検討する。
  - ・その後のスキル定着度を把握する場合は1か月後程度に実施する。
- (4) 実施の対象 : プログラムを実施する生徒全員
- (5) 実施の手順

- ① ソーシャル・スキル尺度の質問用紙を配付する。
- ② 質問用紙のリード文をもとに、ソーシャル・スキル尺度のねらいや記入方法について説明する。

### ソーシャル・スキル尺度のリード文

- ① 質問項目を読み、あてはまる数字に○をつけてください。
- ② 右側の白抜き欄に数字を書いてください。
- ③ 下の欄に合計点を書いてください。

このアンケートは、人とのかかわり方に関する意識や行動について調べようとするものです。正しい答え・まちがった答えというものはありません。成績にも関係ありませんので正直に答えてください。

また、深く考えすぎず、今のありのままの考えを答えてください。

- ③ ソーシャル・スキル尺度の回答時間を確保し、記入させる。
  - ・必要に応じて、質問項目の用語の意味等について解説する。
  - ・記入が遅れている生徒に対し、個別に支援を行う。
  - ・質問項目記入後に、「配慮」「主張」それぞれの合計点を記入させる。
- ④ ソーシャル・スキル尺度の用紙を回収する。

回収後は、教育相談部まで提出。

## (6) 実施上の留意点

- ① 落ち着いた雰囲気の中で実施する。(SHR時)
- ② ソーシャル・スキル尺度についての適切なデータを得るため、生徒の発達段階やクラスの状態を十分に考慮して、記入方法の説明や質問項目の用語解説を行う。
- ③ 実施時期については、可能な範囲でプログラムの実施直前と直後が望ましい。

《 ソーシャル・スキル尺度 》 12月実施 熊本県立熊本商業高等学校  
 ( )年( )組( )号 氏名( )

このアンケートは、人とかかわり方に関する意識や行動について調べようとするものです。  
 正しい答え・まちがった答えというものはありません。成績にも関係ありませんので正直に答えてください。  
 また、深く考えすぎず、今のありのままの考えを答えてください。  
 前回のアンケートと比較させていただきます。

- ① 質問項目を読み、あてはまる数字に○をつけてください。  
 ② 右側の白抜きの欄に数字を書いてください。  
 ③ 下の欄に合計点を書いてください。

< 質問項目 >

あてはまる  
 やあてはまる  
 どちらともいえない  
 あまりあてはまらない  
 あてはまらない

		1 配慮	2 主張
1 友だちが元気のないときは、励まします。	1-2-3-4-5		
2 相手に聞こえる声で話します。	1-2-3-4-5		
3 何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。	1-2-3-4-5		
4 友だちに、自分の考えを言います。	1-2-3-4-5		
5 クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。	1-2-3-4-5		
6 人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。	1-2-3-4-5		
7 友だちがさみしそうなときは、声をかけます。	1-2-3-4-5		
8 必要なときは、自分から先生に頼みます。	1-2-3-4-5		
9 話をするとき、相手の気持ちを考えます。	1-2-3-4-5		
10 わからないことがあるときは、先生に質問します。	1-2-3-4-5		
11 話し合いのときは、自分と違う考えを聞きます。	1-2-3-4-5		
12 グループの人たちの前で、自分の考えを言います。	1-2-3-4-5		
13 友だちの話は、ひやかさないで聞きます。	1-2-3-4-5		
14 自分だけ意見がちがっても、自分の意見を言います。	1-2-3-4-5		
15 友だちが仲間に入りたそうにしていることに気づきます。	1-2-3-4-5		
16 クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。	1-2-3-4-5		

	1 配慮	2 主張
合計		

40点満点 40点満点

【 ソーシャル・スキル尺度の結果と活動プログラムの選び方 】

(1) 尺度の結果をもとにして生徒活動プログラムを選ぶ手順

- ① クラス生徒のソーシャル・スキル尺度の用紙を回収し、「配慮」「主張」それぞれについて、クラスの平均点をだす。

(教育相談部に回収したソーシャル・スキル尺度 用紙を提出して下さい)

※ 各生徒の点数を入力し、クラスの平均点を計算します。

- ② 「配慮」「主張」の平均点から、クラスのソーシャル・スキル状況を把握する。

生徒に身に付けさせたいソーシャル・スキルは、広範囲にわたり、その状況の全体を把握することは難しいことである。また、教師がクラスの生徒のソーシャル・スキルを把握しようと考えたとき、数多くのスキルの一つ一つについて状況を確認することは大変なことである。そこで、この尺度では、「配慮」「主張」の2つの観点をもとに、それぞれの量や2つのバランスにより、ソーシャル・スキルを全体的に捉えようと試みている。つまり、様々なソーシャル・スキルに共通する要素は「配慮」「主張」と捉え、この2つ要素を伸ばすことやバランスをよくすることが、生徒のソーシャル・スキルの育成につながる。

- ③ 「配慮」「主張」の平均点やそのバランス(スキルの獲得状況)をもとに、下の表から、生徒の活動プログラムをクラス担任が選ぶ。

「配慮」「主張」のバランスとプログラム

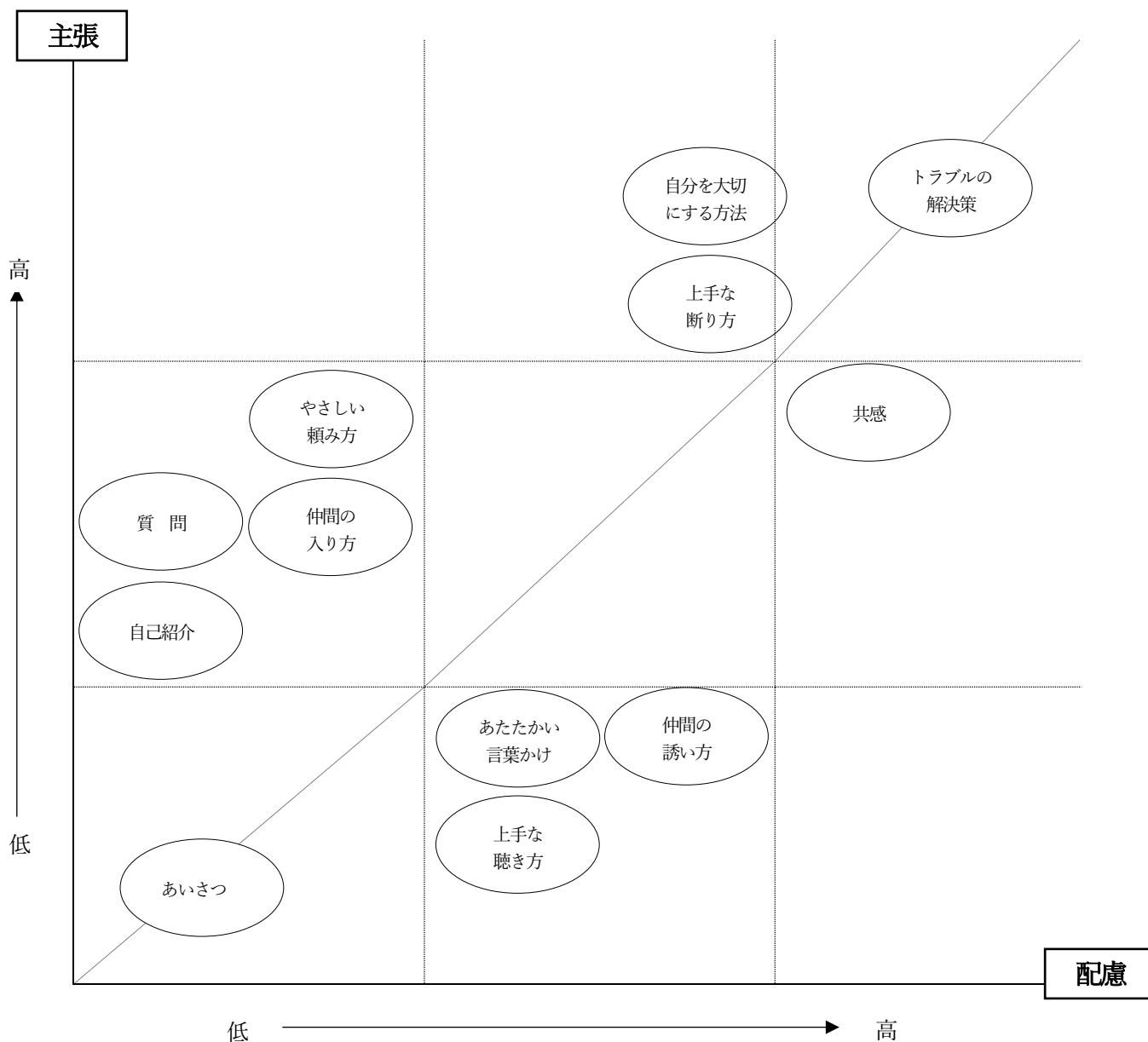
「配慮」「主張」のバランス (スキルの獲得状況)		「配慮」の平均点が「主張」 の平均点より高い場合	「主張」の平均点が「配慮」 の平均点より高い場合
予想されるクラス の雰囲気		・おだやか ・あたたかい ・おとなしい など	・明るい ・積極的 ・思いやりに欠ける など
目指すクラス		・明るいクラス ・積極的なクラス など	・落ち着いたクラス ・思いやりのあるクラス など
プログラムの選び方 のポイント		「主張」を高めるプログラム このクラスは「配慮」の方が高い ため、バランスをよくするため、 「主張」を高めるはたらきかけ をする。	「配慮」を高めるプログラム このクラスは「主張」の方が高 いため、バランスをよくするため、 「配慮」を高めるはたらきかけ をする。
実施するのがよ いと考えられる プログラム	1段階	あいさつ	
		・自己紹介 ・質問	・上手な聴き方 ・あたたかい言葉かけ
	2段階	・仲間の入り方 ・やさしい頼み方	・仲間の誘い方
		3段階	・上手な断り方 ・自分を大切にする方法
トラブルの解決策			

※ プログラムを選択する際には、校種による「配慮」「主張」のバランスの差を考慮する。

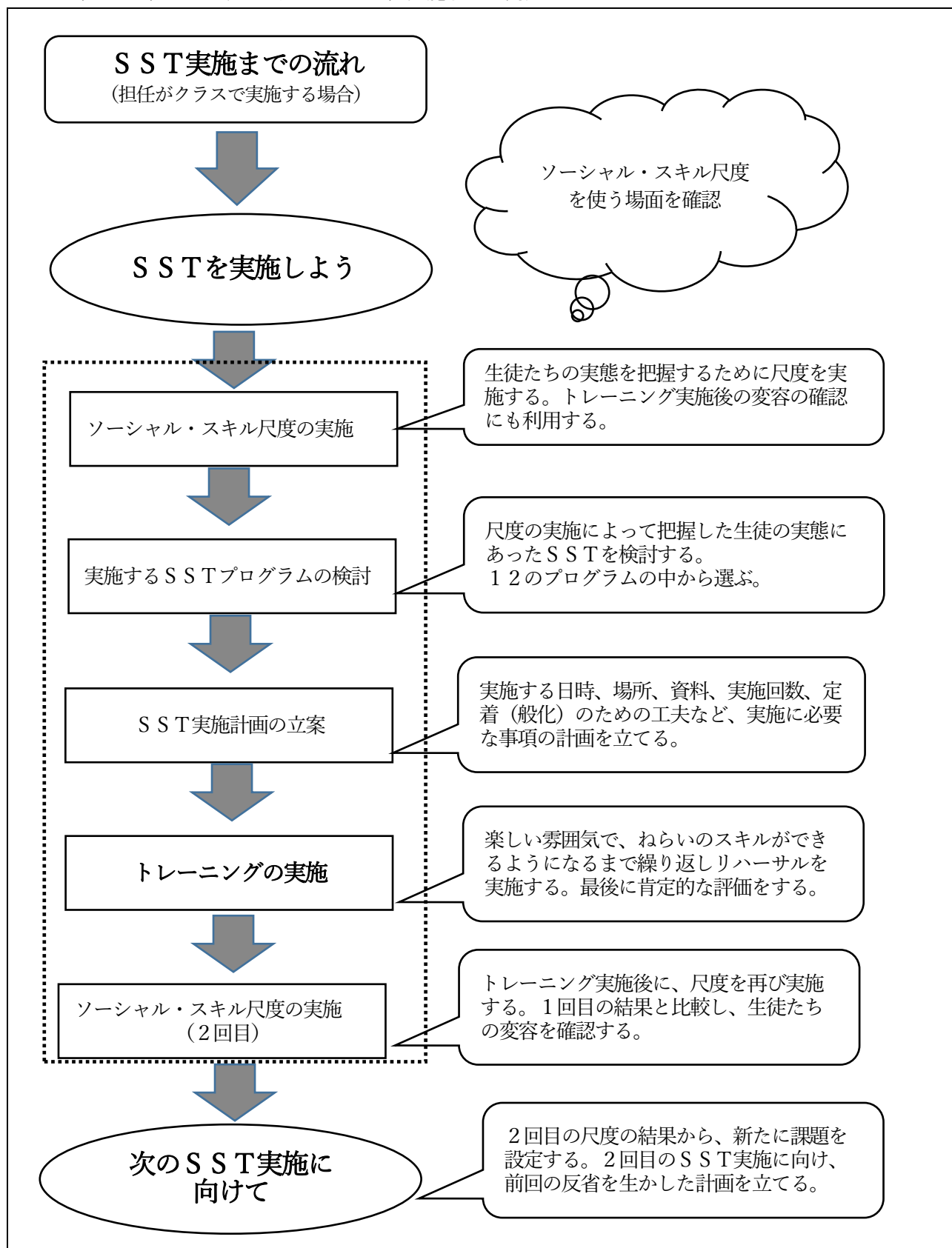
「配慮」 「主張」 のバランスとソーシャル・スキル

配慮と主張のバランス	初～上級	ソーシャル・スキル
配慮 = 主張	1段階	・あいさつ
	2段階	
	3段階	・トラブルの解決策
配慮 > 主張 配慮が優位のスキル	1段階	・上手な聴き方 ・あたたかい言葉かけ
	2段階	・仲間の誘い方
	3段階	・共感 (気持ちをわかって働きかける方法)
主張 > 配慮 主張が優位のスキル	1段階	・自己紹介 ・質問
	2段階	・仲間の入り方 ・やさしい頼み方
	3段階	・上手な断り方 ・自分を大切にする方法

「配慮」 「主張」 とソーシャル・スキルの関係 (イメージ図)



SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）実施までの流れ



● 生徒の活動プログラム（12のプログラム）

- ・あいさつ
- ・自己紹介
- ・上手な聴き方
- ・質問
- ・仲間の誘い方
- ・仲間の入り方
- ・あたたかい言葉かけ
- ・共感
- ・やさしい頼み方
- ・上手な断り方
- ・自分を大切に方法
- ・トラブルの解決策

## ソーシャル・スキル・トレーニング実施に向けてのQ&A

Q1 「SST」って、何のこと？

A1 「SST」は、「ソーシャル・スキル・トレーニング」の略です。

Q2 どんな時にSSTを実施するの？

A2 「人づき合いのコツを教えたい」「コミュニケーション能力を高めたい」「あたたかな人間関係をつくりたい」などの場合に有効です。

Q3 どのプログラムを実施したらいいの？

A3 プログラムを決定するには、生徒たちの実態を把握（アセスメント）し、実態にあったプログラムを選ぶ必要があります。

Q4 実態を把握するにはどうしたらいいの？

A4 観察する、アンケートをとる、客観的な調査をするなど様々な方法があります。ここでは、「ソーシャル・スキル尺度」を実施します。

Q5 「ソーシャル・スキル尺度」って何のこと？

A5 生徒たちの実態を把握（アセスメント）すること、プログラム実施後の変容を確認するためのものさしとなるアンケートです。

Q6 「配慮」って何のこと？

A6 ソーシャル・スキル尺度の観点のひとつです。「相手の状況を理解し気配りするスキル」と定義しています。

Q7 「主張」って何のこと？

A7 ソーシャル・スキル尺度の観点のひとつです。「自らのことを正しく伝えるためのスキル」と定義しています。



ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）公開授業について

実施予定日時：10月21日（木）6限目LHR				SOS推進委員会		
授業担当者：各クラス担任						
実施予定SSTプログラム						
クラス名	番号入力	番号入力	追加	備考	プログラム番号	プログラム名
1年1組	6	5	無		1	あいさつ
1年2組	2		無		2	自己紹介
1年3組	9	10	有	9と10を参考に、指導案の例を変更して実施します。	3	上手な聞き方
1年4組	9		無		4	質問
1年5組	11		無		5	仲間の誘い方
1年6組	2		無		6	仲間の入り方
1年7組	3	8	無		7	あたたかい言葉かけ
1年8組	4		無		8	共感：気持ちをわかって働きかける
1年9組	4		有	4を参考に、内容を変更して実施します。	9	やさしい頼み方
2年1組	12		有	実例をもとにケーススタディワークショップをします。	10	上手な断り方
2年2組	10		有	カード分類比較法を使って、指導案をアレンジしました。	11	自分を大切にする方法
2年3組	10		有	カード分類比較法を使って、指導案をアレンジしました。	12	トラブルを解決する
2年4組	10		有	カード分類比較法を使って、指導案をアレンジしました。		
2年5組	5	6	無	5と6の両方の立場から実施します。		
2年6組	10		有	カード分類比較法を使って、指導案をアレンジしました。		
2年7組	10		有	カード分類比較法を使って、指導案をアレンジしました。		
2年8組	10		有	カード分類比較法を使って、指導案をアレンジしました。		
2年9組	10		有	カード分類比較法を使って、指導案をアレンジしました。		
3年1組	10		有	10のプログラムと認知の仕方を考える内容にします。		
3年2組	7	9	無	7と9のプログラムを合わせて実施する予定です。		
3年3組	10		無			
3年4組	10		無			
3年5組	10		無			
3年6組	12		無			
3年7組	2	4	無	新しい出会いの季節に向けて、2つ実施します。		
3年8組	10		無			
3年9組	2	11	無			

《13クラスが選択したソーシャル・スキル・トレーニングプログラム10》

【ソーシャル・スキル・トレーニング10 上手な断り方】指導案の例

1 「上手な断り方」(ソーシャル・スキル・トレーニング10)

2 指導のねらい

何かを頼まれた時、場合によっては「申し訳ない」という気持ちになることがある。「相手の気持ちに沿うことが良いことだ」という思い込みがあるからである。しかし、「いついかなる場合でも、相手の依頼を断ってはならない」というのでは窮屈すぎる。本プログラムでは、依頼を断っても、相手も自分も不快にならないで済む「上手な断り方」の方法を身に付けることを目指す。

3 目標とするスキル

- ① 相手も自分も大切に「断り方」を身に付ける。
- ② 断った時の代案を考えられるようにする。

4 展開

	教師の発問(◎)・指示(●)	生徒の反応・行動	留意点	時間
導入・指示	<p>●今日は「断り方」について学びます。</p> <p>◎誰かから何かを頼まれたとき、それを断って「何だか悪いことをした」という気持ちになったことはありませんか？</p> <p>◎どうして、そういう気持ちになるのでしょうか？</p> <p>●そうですね。そんな思いが私たちの中にはあります。でも上手に断ると、自分も「悪いことをした」と思わなくて済むし、相手も傷付かなくて済みます。今日は、そんな上手な断り方を身に付けましょう。</p>	<p>・ある ある。</p> <p>・断ることは「悪いこと」だと思っているから。</p> <p>・断ると相手が傷付くと思うから。</p>	<p>・「頼み事を断った」生徒の具体的な体験を発表させてもよい。具体的な例をイメージすることによりしっかりと意識付けを図ることができる。</p>	5
展開1	<p>●それではワークシートに書いてある例を、実際にやってもらいましょう。〇〇さんと、△△さん、お願いします。</p> <p>◎ △△さん、断られてどんな感じがしましたか？</p> <p>●そうですね。ではここで、「断っても、相手が仕方ないと思える断り方」の条件を整理してみましょう。</p> <p>◎どんなことが考えられますか？</p>	<p>・代表生徒は前に出て演じる。</p> <p>・それ以外の生徒は、デモンストレーションを見る。</p> <p>・仕方ないかなあと思いました。</p> <p>・引き受けられない理由をはっきり言う。</p> <p>・「ごめんなさい」という謝罪の言葉を付け加える。</p>	<p>・代表生徒をあらかじめ決めておく。</p> <p>・出た意見を板書する。</p>	10
展開2	<p>●それでは、実際にやってもらいます。近くの人と3人でグループを作ってください。グループができたら、「生徒A」「生徒B」「観察者」を決めて下さい。</p> <p>●役割が決まったら、黒板を見て下さい。</p> <p>「断る場面」で良かったところは、〇〇でしたね。各グループで、その良かったところを実施できるように、練習して下さい。</p> <p>●終わったら、どこが良かったか振り返って下さい。もしも仮に「こうしたらもっといい」というところがあったら、それも伝えて下さい。</p> <p>●それでは、もう一度やってみましょう。&lt;同じように3回繰り返し、全員がそれぞれの役割を経験する&gt;</p>	<p>・3人のグループを作り、最初の役割を決める。</p> <p>・ポイントを理解し、グループ毎に実演する。</p> <p>・「振り返り」をしっかり行う。</p> <p>・「良いところ」に注意しながら、再演する。</p>	<p>・3人で割り切れない場合は、4人グループを作って、観察者を2人にする。</p> <p>・各グループの活動を観察し、必要に応じて指示する。</p> <p>・きちんと振り返りを行い、よりよい「断り方」ができるようにさせる。</p>	25
まとめ	<p>●断っても、自分も相手も嫌な思いをしない。そのためには、ひとつのパターンがあります。そのパターンを覚えておくことが必要です。</p> <p>●でも、どんなに配慮しても、相手が傷ついてしまうという場合も考えられます。そんな時は、その傷を最小限にとどめるために「代替案」を提出するように心がけて下さい。</p> <p>●時には、自分の身を守るために、「相手を不快にしても断らなければならない場面」があります。次回は、そんな時の方法をやってみたいと思います。(※次回があれば)</p>	<p>・断わることは「正当な権利」であることに気付く。</p>	<p>・時間があれば、ワークシートに取り組ませる。</p> <p>上手な断り方は、自分も相手も尊重する方法であることに気付かせ、継続して意識させることが大切である。</p>	10

5 その他

断れずに安易に引き受けてしまった結果、約束を果たせず、一層信用を失ってしまうケースが多々ある。

事前にはっきり断っておくほうが、関係性を保つ上で上策だということに気づかせたい。

板書例 上手な断り方 「依頼されたことを引き受けられない理由をはっきりと言う」

「今回は引き受けられないが、次回なら引き受けられる等の、別の方法を提案する」

## 【ソーシャル・スキル・トレーニング10 上手な断り方ワークシート】

### 場 面

#### 1 場 面

- ・友人から「放課後、ライブのチケットを買いに行こうと思っていただけ、少し足りないんだ。貸してくれないかなあ」と頼まれた場面。

#### 2 役割設定

- |      |                        |
|------|------------------------|
| ・生徒A | お金を貸してほしいと頼む生徒         |
| ・生徒B | お金を貸してほしいと頼まれて、それを断る生徒 |

#### 3 リハーサルの流れ

- ・生徒Aは、生徒Bに対して「お金を貸して欲しい」と頼む。  
断られても、いろいろな理由をつけて、ねばり強く依頼し続ける。
- ・生徒Bは、頼まれてもそれを断る。「貸してもいい」と思えるまで、断り続ける。

### ■断り方の3つのパターン

- ①攻撃的な断り方……………怒りながら断る。相手の話を聞こうとしない。
- ②非主張的な断り方……………はっきり意思表示しないで、察してもらおうとする。
- ③上手な断り方……………相手を傷つけずに、はっきりと断る。

### ■「上手な断り方」のパターン

#### お金を貸して欲しいと頼まれた場面

謝 罪	
理 由	
断 り	
代 案	

### ■断っても、なおも依頼（お願い）してきたら

- 要求の内容を再確認する。（本当の要求でないものに反応している可能性があるので）
- 引き受けられない理由を丁寧に説明する。  
（自分が相手の立場だったら、どう断れば納得するのかを考えながら）
- よりよい代替案を提示する。（自分と相手とが歩み寄った形の代替案）

【ソーシャル・スキル・トレーニング10 上手な断り方のシナリオ例】

生徒A 1 「ちょっとB、話、聞いてくれないかなあ？」

生徒B 1 「なんだよ、A。」

生徒A 2 「実は、ちょっと頼みがあるんだけど。」

生徒B 2 「何だよ、その頼みって。俺にできることかい？」

生徒A 3 「ちょっと、お金を貸してほしいんだけど。」

生徒B 3 「何に使うんだよ。」

生徒A 4 「今日、〇〇のライブのチケットが発売されるんだよ。

俺、予約していて、今日の帰りに店に行くことに

なってたんだけど、今財布の中を見てみたら、500円ほど足りないんだよ。

そんな訳なんだ、頼むよ。」

生徒B 4 「貸してやりたいのは山々なんだけど、俺、今日財布（お金）忘れちゃったんだ。だから貸せない。」

生徒A 5 「え～、そんなあ。当てにしてたのになあ。」

生徒B 5 「予約してあるんだから大丈夫だよ。店に電話を入れて、明日行きますって伝えれば済むことさ。」

生徒A 6 「でも、ずっと前からこの日を楽しみにしていたんだよ。早くチケットを手に入れたいんだよ。」

生徒B 6 「それなら、急いで家に帰って、お金を持ってその店に向かうか、誰か別の人を捜して、お金を借りるしかないね。それができないなら、明日まで待つしかないね。とにかく、今の俺には、貸してあげることはできない。」

生徒A 7 「わかったよ。自分がうかつだったんだから、今日は諦めるよ。じゃあな。」

生徒B 7 「ああ、それじゃあ。」

※言葉の表現をそれぞれにあった言葉等に変える

【ソーシャル・スキル・トレーニング プログラム10 オリジナル指導案の例】(2学年のクラス)  
GIGA スクール研修で学んだカード分類比較法を、ソーシャル・スキル・トレーニングにアレンジした。

めあて 自分が不快なこと・嫌なことを確認する。  
相手と自分の嫌なことには、違いがあることを知る。  
不快な思いをさせられたときに、やさしい言葉で相手に伝えることができる。

目標とするスキル  
相手に気持ちを尋ねるスキル。  
自分の主張を優しい言葉で相手に伝えるスキル。

	教師の発問・指示	生徒の活動	留意点・教材	時間
導入	本時のめあてを生徒に指示する。 「今日は、相手と自分の違いを知り、お互いがうまく気持ちを伝え合う方法を学びましょう。」	本時のめあてを聞く。		3分
展	「友達と SNS で連絡を取るとき、嫌だなと感じることは、どんなことですか。」	ペアで行う。	相手の意見を否定しない。	4分
開 1	Task 1・2 自分を知る。 「ワークシートのカードには、SNS での交流でよく起こる 5 つの行動が書いてあります。それぞれ、カードを切り取って、一番嫌だなと感じる行動を 1 の四角に、その次を 2 番目の四角と順番に最後まで、順番を決めて、自分とみんなの嫌なことのシートにのりで貼ってください。」	カードを切る。 自分が嫌だなと感じる行動を 1 番目からあまり気にならないものを 5 番目として、順番に別紙にはる。	後でシェアリングをすることを伝えて、言いたくないことは言わなくてよいことを伝える。相手とは相談せずに自分と向き合って考えるように促す。 ・カード・台紙 (のり・はさみは生徒持参)	10分
展 開 2	Task 2・3 自分を知る。 「ペアで、お互いの順番を見せ合ってください。」 「どうだったですか、どこが同じで、どこがちがいましたか？」 「どんなことがいやですか？誰にされたら嫌で、誰だったら許せるとかはありますか？自分がされて、嫌なことを詳しく相手に説明してください。」 Task 3 「では、自分はどんなことが嫌なのか書いてみてください。」	ペアで、話し合う。 条件などもお互いに詳しく話すことで、自分は何が嫌なのかを知る。  (時間が余ったら 近くの人とも結果を見せ合う。)		4分

展 開 3	<p>Task4 リスクを考える。 「では、この2つの例を見てください。」 「このような違いがあると、どのような問題が起こると思いますか。」 「ペアで考えて、Task4に書いてみてください。」</p> <p>(例：写真を勝手に SNS にあげて、友人関係が壊れる。</p>	<p>ペアで、どのような問題が起こるか考える。</p> <p>ワークシートに自由に考えを書く。</p> <p>解答が生徒から出たら、パワーポイントの答えは短時間絵示す。</p>	<p>パワーポイントで例を示す。</p> <p>今回は写真を無許可で掲載したことを例とする。</p>	6分
	<p>Task 5 解決法を考える。 「それでは、次の例で、実際のロールプレイのシナリオをペアで作って下さい。」 「友達のインスタに、自分があまりいけない写真がのっていた。さあ、どうする。」 「友人関係が壊れないような言葉で、削除をお願いしてみよう。」</p>	<p>台詞を考える。</p> <p>ワークシートに従って、相手への呼びかけ、前振り、応答、本題、疑問、理由、応答、仲直りの順で、台詞を考える。</p>	<p>パワーポイントでお題を示す。</p> <p>ワークシートに台詞を書く。</p>	14分
展 開 4	<p>トレーニング 「では、役割を決めて、実際に台詞を言ってみてください。」</p>	<p>ペアでロールプレイをする。</p>	<p>クラスの様子で発表をさせてもよい。</p>	7分
ま と め	<p>まとめ 「今日は、自分がされて嫌なことを、うまく相手に伝えて、問題を解決する方法を勉強しました。 このことを生かして、もっと楽しい高校生活を送りましょう。」</p>	<p>めあてを聞く。</p>		2分

(準備物) のり、はさみ、ワークシート、電子黒板使用時のパワーポイントデータ

# 自分とみんなの嫌いなこと

SNS のマナーで自分がいやだと感じること

**Task 1** 下のカードをはさみ等で切って、5枚のカードにして下さい。

①すぐに返信がない

②なかなか会話が終わらない

③知らないところで自分の話題が出ている

④話し中に携帯をさわっている

⑤自分が一緒に写っている写真を公開される

# 自分とみんなの嫌いなこと

SNS のマナーで自分がいやだと感じること

## **Task 2** 自分を知る・相手を知る

あなたが嫌だと感じる順に、1から5番までを決め、下の台紙にカードを貼って下さい。

(1が一番嫌 → 5はある程度はよい)

台紙

1 (1番嫌)
2 (2番目に嫌)
3 (3番目に嫌)
4 (4番目に嫌)
5 (5番目に嫌)



### Task 3 自分を知らう

自分がされて嫌なことを書こう

### Task 4 リスクを知らう

相手とどんな問題が発生するか考えよう

### Task 5 解決法を考えよう

問題の解決法を考え、その解決法に基づいて、実際の会話を考えて作って下さい。  
最後はハッピーエンドになるようにお願いします。

A さん	B さん
1 ( ) さん 挨拶 ・	2 ( ) さん 挨拶 ・
3 前振り	4 応答
5 本題	6 疑問
7 理由	8 応答
9 仲直り	10 仲直り

Class No Name

## 資料2

### 令和3年度（2021年度）「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業における公開授業実施要項 オンライン

#### 1 目的

生徒がおかれている環境において、現在ならびに将来起こり得る危機的状況に対し、生徒自らが身近にいる信頼できる大人にSOSを出す援助希求行動ができ、その大人がそれを受け止め、支援ができるようにすることを目的とする。

そのために、現在ある本校の販売実習「熊商デパート」やストレス対処プログラム等の人を育てる資源を活用し、生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、よりよい人間関係を築くことのできる集団・仲間づくりを目指す。また、教職員の実践的指導力の向上を目指し、研究指定校初年度として県下の各学校に中間報告をする。さらに、いじめ防止等を含めた生徒指導上の諸課題の改善に資する。

#### 2 期日

令和4年（2022年）2月3日（木）14時30分～16時10分

#### 3 会場

熊本県立熊本商業高等学校（熊本市中央区神水1丁目1番2号）

電話：096-384-1551

#### 4 日程

- |                              |               |
|------------------------------|---------------|
| (1) 開会                       | 14時30分～14時35分 |
| ア 会場校校長あいさつ                  |               |
| イ 県教育委員会あいさつ                 |               |
| (2) 研究の概要報告（中間報告）            | 14時35分～14時55分 |
| (3) 公開授業説明「ストレス対処プログラム」      | 14時55分～15時00分 |
| (4) 公開授業                     | 15時05分～15時55分 |
| モデル授業 1年9組「二者択一」、2年5組「私の四面鏡」 |               |
| 授業実施者：担任 東 周平      担任 大瀬 朝仁  |               |
| (5) 公開授業実践報告                 | 16時00分～16時05分 |
| モデル授業担当者                     |               |
| (6) 閉会                       | 16時05分～       |

#### 5 オンライン参加登録者数：56名

- |       |                |      |
|-------|----------------|------|
| (内 訳) | 県立学校職員（本校職員除く） | ：41名 |
|       | 本校職員           | ：15名 |

#### 6 オンライン配信方法

Google classroom にて連絡

YouTube live（限定公開）

事前配信、開式、公開授業（2年5組「私の四面鏡」） <https://youtu.be/6kGKadrjBk8>

同時配信公開授業（1年9組「二者択一」15時05分より） <https://youtu.be/OnAfaagfk7k>

## 「SOSの出し方に関する教育」学習指導案

日時：令和4年2月3日（木）

時限：6限目14時35分～15時25分

場所：熊本商業高等学校 3年8組教室

実施クラス：情報処理科1年9組

41名（男子28名、女子13名）

授業指導者：教諭 東 周平

### 1 題材名 ストレス対処プログラム「二者択一」

### 2 題材について

#### (1) 生徒の実態（生徒観）

素直で穏やかな生徒が多いクラスである。教師の指示をしっかりと聞き、積極的に行動できる生徒が多い。情報処理科として、商業科目、特に情報処理には高い意識で臨む雰囲気がある。一方、定期考査や検定試験で良い結果を得られず、勉学に対する苦手意識をもつ生徒が一定数在籍している。人間関係の面では、男女に分かれて関わることが多い。4月の仲間づくりLHRやクラスマッチ等の学校行事でクラスメイト同士の仲が深まり、9月の分散登校を経て人間関係の変容が見られたりした。また、本校の学校行事である12月の熊商デパートを通してクラスの結束力が強くなり、これまでとは違う人間関係が構築されたりもした。しかし、クラス内では未だに話したことの無い人がいたり、顔と名前の一致しない人がいたりする現状もある。今回は、分散登校となりクラス人数の20名で実施する。

#### (2) 題材設定の理由（題材観）

自己理解・他者理解を深めることを目的として「二者択一」を実施する。2つの選択肢から選び、その理由を考える活動を通して、自己決定を振り返ることができる。また、他者がなぜそれを選んだのかを知ることで、クラスメイトのこれまで見えていなかった一面を知ることができる。本クラスは一部の仲の良いクラスメイトとは親密になれているが、そうでないクラスメイトと新しい関係を築けないという現状がある。「二者択一」の自己理解・他者理解を深めることができる性質を活用して、新しい関係性を築ききっかけを作りたい。そして、人間関係をよりよく構築する能力が身につく高まれば、SOSを上手く発信する能力にも繋がると考える。

#### (3) 指導観（題材の目標）

今回の題材「二者択一」を通して、お互いの価値観・考え方の違いを知り、自己理解・他者理解を深めたい。さらに、お互いの違いを尊重する態度を育て、よりよく人間関係を育むきっかけを作りたい。まず導入では、「自分のこと知っていますか。そして相手のこと知っていますか。」と発問し、自分やクラスメイトへ意識を向けさせ、本時の授業の目標を理解してもらう。

ただし、授業者が説明するだけでなく、様々な発問を繰り返し、生徒の言葉や反応を生かして組み立てることで、グループ活動を円滑に移行できるように実践する。グループ活動では、発表後のフィードバックを肯定的に実施することで、「発表して良かった」や「これなら安心して話せる」という安心感のある活動にしたい。このような雰囲気でもたされたクラスは、SOSも発信しやすいと考える。

### 3 指導計画

1限目 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング） 10月21日（木）実施

2限目 ストレス対処プログラム「二者択一」（本時）

### 4 学習の展開

#### (1) 本時の目標

- ① お互いの価値観・考え方の違いを知り、自己理解・他者理解を深める。
- ② お互いの違いを尊重する態度を育てる。

(2) 本時の展開

	学習内容・活動（指示）	指導上の留意点及び評価	備考
導入 10分	<p>教師の教示＝●、子どもの反応・行動＝☆</p> <p>● 皆さんは「自分」のことを知っていますか。 そして、「相手」のこと知っていますか。</p> <p>● 目を閉じてください。少し時間を上げます。 自分はどんな性格か考えてみましょう。 次に、隣の人性格を考えてみよう。 いかがでしたか。自分のこと、隣の人のこと、想像できましたか。ふさわしい言葉や姿をイメージできた人は手を挙げてください。</p> <p>☆ 手を挙げる。挙げない。</p> <p>● <u>挙手が少ない場合</u> 意外と自分と相手のこと知らないですね。 改めて自分や周りのことを知る良い機会にしましょう。</p> <p><u>挙手が多い場合</u> 自分のこと、相手のこと、よく知ることができていますね。でも、まだ見ぬ一面もきっとあります。改めて自分や周りのことを知る良い機会にしましょう。</p>	<p>就職後に求められる能力等、進路に関係する話と関連付け導入する。</p> <p>適宜、電子黒板にスライドを写し、指示を視覚化しておく。</p>	
展開 30分	<p>● 今日は「二者択一」という活動をしします。</p> <p>● ワークシートを見てください。「犬か猫か」「田舎か都会か」など2つの単語がペアになって書かれています。それぞれについて、あなたの好きな方、また大切だと思うほうを選んで○印をつけてください。どちらが正しいということはありません。自分の考えでどちらか一方を選んでください。書き終わった人は、自分がなぜそれを選んだのか、それぞれ理由を記入してください。</p> <p>☆ それぞれが記入する。</p> <p>～グループ活動へ向けて～</p> <p>● 5人のグループに分かれください。お互いの誕生日を言い合って、順番をつけます。1月が最初、12月が最後です。順番を覚えておいて下さい。今日は1番の人に班長さんをやってもらいます。班長さんは、プリントを取りに来て下さい。発表は誕生日の遅い人から始めましょう。</p>	<p>ワークシートには事前に生徒から調査した「究極の二択」を入れる。</p> <p>授業者が座席表をもとに、事前に決めておいた班に分かれる。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これから各自のワークシートを紹介し合います。ここで注意してほしいことは「学級にはいろいろな人がいるので、もちろん、意見が違う場合もある」ということです。価値観が違うということは、新しい考えを自分も吸収できる、または、新しい視点でものごとを考えることができるきっかけとなります。だから、「そう考えるあなたはおかしい」というような相手を否定することは絶対に言わないようにしましょう。</li> <li>● 順番に、1番の項目について「選んだ単語」と「選んだ理由」を話します。全員が話したら、2番の項目について同じように話をします。全部の項目が終わるまで続けてください。</li> <li>● 選んだ理由は、たとえば、「私は、田舎と都会では都会を選びました。理由は、私自身、洋服が好きなので、流行の最先端で情報や商品を手でできる都会を選びました」というように説明して下さい。</li> <li>● その人らしさが考え方に表れていることを認めながら聞きましょう。聞いた意見の中で「参考になる・面白い・同じだ」と思った意見は、メモをしておいて、フィードバックしてあげましょう。</li> <li>● 終わりましたら、お互いに聞きたいことなどを質問して下さい。</li> </ul>	<p>他者の意見を認め合う雰囲気を作る。</p> <p>適宜、電子黒板にスライドを写し、指示を視覚化しておく。</p> <p>タイマーを設置し、活動時間の目安を作る。</p>	
<p>整理 10 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各自「振り返りシート」を記入して下さい。( → 回収)</li> <li>● 活動で感じたことを順番にグループのメンバーに話します。</li> <li>● 聞いた意見の中で、「参考になる・面白い」と感じたものがあたらみんなに発表して下さい。(全体のシェアリング)</li> <li>● いろいろな考え方、感じ方があったと思います。自分と似た考えの人、少し違う考えをもっていた人もいますね。お互いの選択には正しい、間違いはないので自分にあった選択ができればいいですね。</li> </ul>	<p>Google forms を活用。 Jamboard を活用。</p>	<p>タブレット使用</p>

参考文献：「構成的グループエンカウンター事典」（図書文化 総編集 國分康孝）

内容に関しては、本校スクールカウンセラーとの事前打ち合わせを実施している

## 「SOSの出し方に関する教育」学習指導案

日時：令和4年2月3日（木）

時限：6限目14時35分～15時25分

場所：熊本商業高等学校 3年2組教室

実施クラス：商業科2年5組

41名（男子30名、女子11名）

授業指導者：教諭 大瀬 朝仁

### 1 題材名 ストレス対処プログラム「私の四面鏡」

### 2 題材について

#### (1) 生徒の実態（生徒観）

2年5組は、商業科進学コースのクラスであり、ほとんどの生徒が進学を希望している。クラスの雰囲気は、落ち着いており学習意欲も高い。部活動にも一生懸命に取り組んでおり、各部活動の中心となって活躍している生徒も多い。クラスの男女の人数の割合は、4分の3が男子、4分の1が女子である。男子は優しい性格の生徒が多い。女子は、人数は少ないが男子に負けないくらい明るく元気で、責任感が強い生徒が多いクラスである。1学期当初は、遠慮しがちの雰囲気だったが、熊商デパートや修学旅行等の学校行事を通して、クラスの結束力が強くなり、自発的に行動できる生徒が少しずつ増えてきている。一方で、アイデンティティの形成期であることから、自分のよさや自分らしさを模索して、将来の夢が持てず、不安を抱えている生徒も多い。今回は、分散登校となりクラス人数の20名で実施する。

#### (2) 題材設定の理由（題材観）

本時では、肯定的印象を相互に直接伝え合う「私の四面鏡」を扱う。クラスは、学校行事等において、声をかけながら協力して物事に取り組む様子が多く見られ、生徒がお互いの性格を理解して人間関係を形成していることがわかった。今回の題材では、生徒同士で感じているお互いの印象を言語化することで、内省のきっかけを与え、自己を再認識させたい。しかし、アイデンティティの形成期ゆえに心が繊細で、傷ついてしまうこともある。そこで、グループで話し合う際は、聴く側は自分の印象を素直に受け入れ認めること、伝える側は他者を認め尊重することを理解した上で行う。また、現代は情報通信機器の普及で、相手の印象を直接言葉で伝える機会は少ない。この活動によって、素直に伝えることの喜びや人の温もりを感じさせ、人との関わりの大切さや直接的コミュニケーションの楽しさにも気づかせたい。

#### (3) 指導観（題材の目標）

お互いに感じている肯定的な印象を理由とともに伝え合い、自己を否定的に捉えすぎたり自分でも認識していなかった一面を気づかせたりし、自己肯定感を高めたい。そうすることで、自己のあり方について前向きに捉え、将来を主体的に考えられるきっかけを作りたい。これから、人間関係や進路実現などで困難に直面することもあるが、肯定的な雰囲気のあるクラスであれば生徒が自らSOSを発信しやすい環境になる。クラスを温もりのある環境にし、本校の教育スローガンである「恕」の精神を育み、互いに励まし合いながら進路実現ができる集団を目指したい。

### 3 指導計画

1限目 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング） 10月21日（木）実施

2限目 ストレス対処プログラム「私の四面鏡」（本時）

### 4 学習の展開

#### (1) 本時の目標

- ① 実際にお互いの肯定的印象を伝えあう活動を通して、相手の人格を認める体験・相手から認められる体験をし、人格尊重の態度育成のきっかけとする。
- ② 自己認知を変え、自己肯定感を高めるきっかけとなる。
- ③ クラス内の肯定的関係づくりのきっかけとなる。

(2) 本時の展開

	学習内容・活動（指示）	指導上の留意点及び評価	備考
導入 10分	<p>教師の教示=● 生徒の反応・行動=☆</p> <p>●自分はどうの人なのかわかりますか？友だち（人）のことはわかりますよね。では普段お互いに相手の良いところを伝えあうような場面がありますか？意外と心の中で思っているも照れくさかったり、何と言ってあげれば良いかわからなかったりしてできないことが多いのではないのでしょうか。今日は、相手の良いところをお互いに伝えあう活動をします。</p> <p>●じゃあまずは、私を例にしてみましょう。</p> <p>●最初にルールを2つ決めておきます。説明が終わるまで活動に入らないで下さい。「始めて下さい」と言われてから始めます。もうひとつ、冗談でも相手の悪口になるようなことは絶対口にしないようにして下さい。</p> <p>●5人のグループに分かれください。お互いの誕生日を言い合っ、順番をつけます。1月の誕生日が最初、12月が最後です。順番を覚えておいて下さい。今日は1番の人に班長さんをやってもらいます。班長さんは、プリントを取りに来て下さい。</p>	<p>●進路選択と関連付けながら、自己について問いかける。</p> <p>●GoogleForms を利用。</p> <p>●ルールを徹底すること。</p>	<p>●タブレットPC</p> <p>●ワークシート1・2、発表原稿シート</p>
展開 30分	<p>【準備】《1分》</p> <p>●ワークシート1「手鏡」の「私から見た」という欄の下にA～Eの欄に自分以外の班の人の名前をすべて書きます。同じアルファベットには同じ人の名前が入ります。</p> <p>●ワークシート2「四面鏡」のA～Eの欄にも同じように自分以外の班の人の名前を書きます。</p> <p>【私から見た私】《2分》</p> <p>●ワークシート2「四面鏡」を出して下さい。「私から見た私」の欄に自分で当てはまると思うものに○印を5つつけてください。必ず○印は、5つつけます。自分のことはなかなかつけにくいかもしれませんが、思い切ってつけましょう。</p> <p>【私から見た○○さん】《5分》</p> <p>●ワークシート1「手鏡」を出して下さい。「私から見た○○さん」の欄に、自分から見たメンバー一人一人について、同じように○印を5つずつつけてください。</p> <p>●その人のことをよく知っている場合もあると思うし、まだ一度も話したことがない場合もあると思います。話したことがない時には普段の印象で構いません。必ず○印を5つつけてください。</p>	<p>●5人の班ではEの欄は空欄にする。</p> <p>●○印の数は必ず「5つ」にする。</p> <p>●指示がうまく理解されずに戸惑う場面も予想されるので、丁寧に説明・補足をする。</p> <p>●この後の発表に備えて、発表原稿シートに○印をつけた理由も書かせる。</p>	

	<p>【発表】《22分》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれのどこに○印をつけたか発表します。</li> <li>●1番の人から始めます。1番の人はワークシート2「四面鏡」を出しておきます。他のメンバーの人はワークシート1「手鏡」を出しておきます。2番の人から1番の人のどこに○印をつけたか発表していきます。1番の人はそれを「○○さんから見た私」の欄につけていきます。</li> <li>●発表する時に、なぜその項目を選んだか、簡単に説明して下さい。</li> </ul> <p>☆「私は○○さんについて、5番の「しっかりしている」と、10番の「心くばりのある」と、・・・を選びました。5番の「しっかりしている」を選んだ理由は、発表などをするときいつもきちんと自分の考えを言うことができていると思うからです。10番の「心くばりのある」を選んだ理由は・・・。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●聞く人は聞くこと、話す人は話すことに専念してください。</li> <li>●2番の人の発表が終わったら、3番、4番、・・・と発表していきます。</li> <li>●1番の人について、すべてのメンバーの発表が終わったら、次に2番の人について同じように発表していきます。全員終わるまで繰り返してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発表がしやすい雰囲気づくりができるように机間指導をしながら適宜声をかける。</li> <li>●電子黒板にタイマーを表示し、時間配分をする。</li> </ul>	
<p>整理 10 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人から良いところを伝えてもらって、どんな気持ちになりましたか？感じたこと、思ったことを話し合います。班内でそれぞれ発表してもらいますので、何を話すか各自考えてください。</li> <li>●それでは、今度は先ほどとは逆の順番で発表してもらいます。最後の番号の人から班のみんなにどんなことを感じたか話してください。</li> </ul> <p>☆「はずかしかったけど嬉しかった」、「新たな自分の一面に気づけた」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今日は、お互いにいいところを見つけ合って、あたたかい気持ちになったと思います。これからも人のいいところを見つけてあげられるといいですね。</li> <li>●グループを解体します。お互い感謝の気持ちを込めて「お疲れさまでした。」と言って分かれましょう。</li> <li>●各自「振り返り」を記入して下さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手を肯定的に認めることや、自分のよさに気づき、それを受け入れることで、相互を尊重する態度や自己肯定感を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●振り返りシート</li> </ul>

参考文献：「構成的グループエンカウンター事典」（図書文化 総編集 國分康孝）

内容に関しては、本校スクールカウンセラーとの事前打ち合わせを実施している





「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業における  
公開授業オンライン 全体会



熊本県教育委員会あいさつ



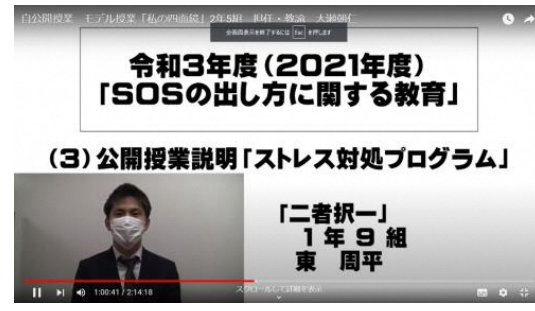
会場校校長あいさつ



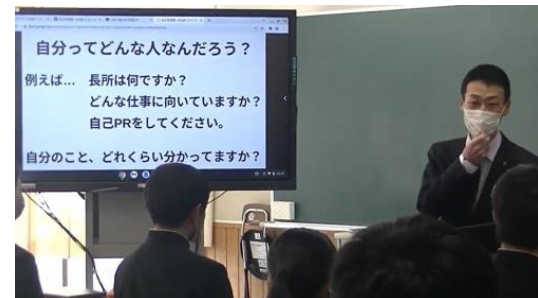
公開授業実践報告



公開授業説明



公開授業説明



公開授業の様子「私の四面鏡」



公開授業の様子「二者択一」



令和3年度（2021年度）「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業における  
公開授業オンライン参加者アンケート回答集計

2022年2月3日（木）実施

1 アンケート回答数：32名

2 アンケート項目：以下の6項目をMicrosoft formsにて回答

(1)「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業における公開授業（2月3日（木））の実施時期について

- 参加しやすい時期 11名（34%） 参加可能な時期 18名（56%）  
参加しにくい時期 0名（0%） どちらとも言えない 3名（9%）

(2)「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業における研究の概要報告について（意見等）（21名）

- 資料が多かったため探すのに少し時間がかかりました。
- SSTは本校でも主に特別指導で実施しています。特にロールプレイは効果が大きいと感じていますので、ご紹介します。
- SSTを活用されているようですが、商業の生徒さんの多くは高い結果になってしまうだろうと思いました。しかし、その結果を活用し授業を考えるととても有効であると感じました。
- 数ある実践の中でもSHORYUタイムが特に素晴らしいと思います。  
アンケート回答時期もさることながら、プリントを配付するのではなく、ラミネート加工したものを生徒さんに配布し相談するためのハードルを低くしておられる点は見習うべきだと思いました。
- 生徒の自己肯定感を高めるという趣旨があり、それを達成できたと感じる授業内容でした。
- 年間の取り組みの構成がとても参考になりました。
- 御校では、生徒のSSTについては、SSTを十分体得できているという実践結果から、今後の継続実践は不要と判断し、次年度はストレス対処プログラムを継続するという趣旨と拝察しました。  
人間関係の形成という視点からの御校の教育環境の良さ、そして、時として耳にしていた御校全体の雰囲気の良いことを実感できました。
- とても分かりやすくまとめてあり、本校の取り組むべき課題が伝わりました。これを解決するために、いろんなポジションから取り組めば、さらに生徒たちの能力開発につながると実感しました。
- ストレス対処プログラムを通してソーシャルスキルは身につくと思うので、最後にアンケートを取ると、ソーシャルスキルがさらに伸びているのではないかと思います。
- SSTだけでなく、LINE相談なども取り組まれていてとても勉強になりました。
- 今回、初めて「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業における公開授業に参加させていただきました。日頃の教育活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていくことや人間関係での仲間づくりの大切さを改めて感じることができました。
- SST実施前後の変化を数値化して検証し、高めるべき力を明確にしているところが良いと思います。
- まず、生徒への年間2回実施のアンケート実施内容は、本校の内容をご活用いただき、南稜高校からのつながりができていることを大変ありがたく思いました。また、アンケート結果だけでなく、商業高校としての行事などの取り組みが生徒への自己肯定感や有用感につながるのかを、説明や資料からはっきりと理解することができました。今年度多くの実践や検討を重ねられて学校全体で取り組まれてきたことがわかります。実践を丁寧に資料にされており、見直して次年度本校の内容に活用できることは、取り入れさせていただきたいと考えております。
- 資料も詳しくまとめられており分かりやすかったです。
- 熊商デパートなど学校ならではのイベント等を活かして、生徒の自己肯定感を高めることができるのがとても羨ましいなと思いました。LINEを使って相談ができるというのも時代に合っていて、生徒たちが声をあげやすい環境を整えていらっしゃるのが伝わってきました。

(3) オンライン配信「公開授業」モデル授業への感想やアドバイスなどについて（29名）

- 高校生は、自分自身の存在に悩み、気にする時期だと思います。友達や周りからの言葉から方向性を決めたり、救われることも多々あるのではないかと感じました。授業を受けていた生徒もとても素直で、また恥ずかしがりながらも自分のことを知れた時間になったのではないかと感じました。今後の授業の参考にさせていただきます。
- やはり実際見ないと実感が湧かないなと感じました。
- 配信お疲れ様でした。準備・設定等、たいへんだったと推察いたします。
- 2年5組の授業を主に拝見させていただきました。先生の優しく温かい雰囲気が印象的でした。また、デモンストレーションでフォームズを使って示されていた工夫は真似させていただきます。
- 生徒の皆さんの様子がよくわかりました。次第に緊張がほぐれて笑顔が増え、お互いに温かい言葉かけをされている様子が伝わりました。先生の指示や声かけも勉強になりました。
- 私の四面鏡は教材としてとてもいいと思いました。何年生でも、何度でも取り組むごとに環境が整っていくように感じました。
- 生徒さんの生き生きとした様子を見ることができ、このような SST の重要性を学校教育に計画的に組み込んでいくことの重要性を感じました。
- 他校の取り組みを見ることができることは、教材研究にもつながるいい機会だと感じました。
- 生徒たちが生き生きとコミュニケーションをとっており、クラスの雰囲気作りのきっかけになると思いました。
- 「私の四面鏡」を参観させていただきました。授業を見ていて、とてもあたたかい気持ちになる、雰囲気の良い授業でした。本校の生徒たちを見ていても自己肯定感が低いな…自分に自信がない子が多いな…と感じる事があるので、今回の授業は本当に魅力的でした。大瀬先生の授業の雰囲気のつくり方、話し方、そして生徒さん達の積極的な授業参加でクラス内に支持的風土ができており、自己肯定感のアップにきつとつながったと思います。”
- 私の四面鏡の授業を見させてもらいました。自己理解や他者理解の力、感性なども同時に身に付けることができる内容で、本校においても取り組みやすい授業内容で大変参考になりました。
- You Tube 配信ということで、2つの授業を同時に参観することができました。どちらの授業も、最初は緊張した雰囲気だったのが、次第に和やかな雰囲気になっていったことがよく伝わってきました。SST の組み立て方も50分の内容にちょうどよく、先生方の指示も分かりやすかったので、生徒がよく取り組んでいたと思います。生徒が何を話しているのかはよく聞き取れませんでした。表情から、本時の目標を達成できたのではないかと推測します。このような実践を、各学校の年間計画に取り入れ、定期的の実施できれば、いざというときの SOS の出しやすさにつながっていく土壌ができるだろうと改めて感じました。
- 公開授業は「私の四面鏡」を拝見させていただきました。大瀬先生が実践報告でおっしゃられたように、最近の子どもたちはLINEなどの文字によるコミュニケーションが多く、面と向かって友達の良いことを伝えることに恥ずかしさなどを理由に、自己肯定感を高める機会が減ってきているのだと思います。子どもたちが自己肯定感を高め、より良い学校生活や進路選択をするためには、「自分で自分のことをどう思っているか」「他人から自分はどのように思われているか」というところから、「自分らしさ」や「自分とは何なのか」ということを考えるきっかけづくりが必要だと思いました。生徒さんも笑顔でコミュニケーションをされている印象でした。大変勉強になりました。
- 本校でもネット上のコミュニケーションが盛んで休憩時間も隠れてゲームをしていたり、人と人同士の直接的なコミュニケーションは少なくなっている現状があると思います。また他罰的な言動もよく見られるので、私の四面鏡のような授業を行うと良いきっかけになるなと考えました。一つの授業を見始めると、もう一つの二者択一が同時進行で行われていることを忘れてしまい、最後の方しか見れませんでした。

- 年齢的に生徒に近い先生の授業で、生徒も自分を出しやすかったと思います。
- 準備などとても大変だったと思います。コロナ禍に合った公開の仕方ではないかと思います。視聴しやすかったです。欲を言うなら現場での生徒の様子も見てみたかったという気持ちもあります。
- 生徒の皆さんにとっては、自分を客観的に知る良い機会になったのだらうと感じました。私自身の経験からも、「自分の長所って？」と考え込んでしまう生徒を多く目にしてきましたので、このような実践の大切さを改めて感じました。素敵な実践をありがとうございました。
- 先生方お疲れ様でした。配信授業2クラスを切り替えながら視聴させて頂きました。緊張の中で、生徒の自然な笑顔を見ることができ、この時間の積み重ねが人となりを作っていくんだろうなと思いました。コロナ禍の中のグループワーク大変だと思いました。以前の学校で、このワークを二つともやったことがありますが、小グループワーク後に、全体に向けて1、2グループでも発表しあって、また共通認識が広がったことを思い出しました。
- 生徒が、自分を見つめ他者を受け止め、笑顔で話す様子がとても印象的でした。文字ではない直接のやり取りの良さを、改めて感じることができました。
- 授業は、お疲れ様でした。生徒さんたちのしっかり取り組んでおられる姿が印象的でした。いただいた資料は、参考にしたいと思います。
- 本校でも SST 等を実践されてきましたが今年はコロナの影響もあり、なかなか実施できずにいました。私は初任者で学校現場も初めてのため、このような授業を拝見させていただきとても勉強になりました。生徒たちがグループワーク等を通しどんな気持ちになったのか、どう感じたかを私も知りたいなと思いました。
- ご準備は大変だったかと思いますが、おかげで、生徒さんたちの表情や会話まで理解でき、オンライン配信のほうが、逆に聞き取りやすかったように思います。
- 生徒たちが楽しそうに笑顔で取り組む姿が印象的です。二者択一では、生徒たちが意欲的に取り組むような選択肢の設定をされるなど工夫がありました。私の四面鏡では、導入の際に先生がモデルになってデモをされたので、難しい内容の作業でしたが、生徒たちはイメージをつかんでスムーズにこなしていたように見えました。生徒たちは良い気持ちで授業を終えられたのではないかと思います。
- 生徒たちが自分の意見をしっかり伝えている様子や互いに認め合いながら活動していた印象です。面白そうな意見を言っている生徒さんもいたので、Jam ボードの内容を見たかったです。全員で内容を共有する時間があるとグループだけでなく、クラス全体に広がる活動となったのではないかと感じました。ですが、楽しそうで素晴らしい授業だったと思います。準備から授業まで本当にお疲れ様でした。
- 公開授業「私の四面鏡」を中心に見させていただきました。班ごとのグループワークで、自分自身のことや他人から見た自分の印象等についてコミュニケーションを取りながら確認できた授業だと感じました。生徒たちは恥ずかしさもありながらもお互いのことを話しており、良い機会になったと感じました。大変参考になりました。
- 最初に四面鏡、手鏡の意味を説明してタイトルが示す活動の目的を伝えると良いと思います。「四面鏡」とは何か、「三面鏡」では見えない自分の姿を見ること、手鏡は私の目に映る姿、など。
- 今回は「私の四面鏡」を視聴いたしました。はじめの授業内でのアンケートをタブレット活用、電子黒板のストップウォッチの活用など、ICT 活用の観点でも参考となるものでした。特に準備された選択肢の表に丸をつけるワークシートは、見やすくこれはいいなと思いました。本校の同様の取り組みでは、文章を書かせていたのですが、表は5人の比較がしやすく、互いの良い部分がわかりやすいです。授業後半の生徒の班の発表の際は笑顔が多くなるなど変化が見られ、認められると恥ずかしいけどうれしいという、題材による取り組みの効果を表していると感じました。
- 生徒の能動的な活動がとても良かったと思います。また、最後に何故このような活動を行ったのか、また今後どのような場面で活かしていくのかを、各班ごとに発表させ、生徒の言葉でまとめると、さらに学びが深まったのではないかともしました。

- 『私の四面鏡』を拝見しました。印象的だったのは、デモンストレーションで担任の先生の良さを生徒たちがタブレット端末を経由して伝えるという場面もあれば、グループでは生徒が面と向かってお互いを褒め合うといった、対面とツール経由の両方の良さをうまく活用されていたところです。生徒さんもとて活発に発言していて、恥ずかしそうでしたが、しっかり相手に伝えるところが素敵なクラスだなと感じました。

(4) その他「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業における公開授業オンライン配信全般について  
(23名)

- 事前の連絡等も的確でした。
- ご準備が大変だったと思いますが、お陰さまで最後まで視聴することができました。
- 音声重なっている部分があり聞き取りにくいところがありました。コロナ禍でも、授業を見せていただくことができありがたかったです。最初から最後まで視聴側のことを考えた画面の構成がありがたかったです。
- こちら側の問題かもしれませんが、開会のごあいさつの音量が低く聞き取りにくかったです。
- 公開授業内での生徒の発言がもう少しはっきり聞こえると嬉しかったです。
- 本来であれば直接生徒たちの様子を見たかった気持ちはありましたが、ライブでの映像でしたので、それに迫る様子を感じることができました。
- イヤホンで聴いていたため、椅子や机を動かすときの音が驚いてしまいました。
- 分散登校やオンラインの準備など大変だったと思います。
- 電子黒板の活用事例としても興味深かったです。また、本題と関係なくて恐縮ですが、授業開始前の生徒さんの言葉に「投げ銭してもらわなん」というのがあり、ほほえましいと言いますか、どこの高校でも生徒は本当にYOUTUBEよく見ているよねと感じました。
- 全くトラブルなくスムーズに進んで、準備、運営して頂いた先生方、本当にありがとうございました。廊下を走り回られているのを画面越しに拝見しました。先生方のご尽力に感謝です。
- 大変勉強になりました。本校でも実践できることから始めたいと思います。
- ストレス対処プログラムもソーシャルスキルトレーニングを兼ねているような印象を受けました。自己肯定感を高め、自分と他者の考えの違いに気づいて、他者の考えを受け入れる。そして良好な人間関係を作ることができれば、良いクラス作りにつながると思います。とてもよい取り組みだと感じました。
- 準備等大変だったと思います。本当にお疲れ様でした。
- 今回はオンラインでの開催となり、実際に見に行けなかったのが残念でした。しかし、映像や音声などは見やすく良かったと思います。準備から開催まで大変お世話になりました。
- コロナ禍でもオンラインで公開授業を参観することができ、多くの先生方が参加できて有意義な時間でした。
- 数台のカメラの活用による画面切り替えや音が明瞭であり、見やすく、ほぼ教室で見るのに近い状況でありました。特にオンラインでも生徒の表情を確認でき、はっきりと発言を聞くことができました。準備が大変であったと思いますが、本校でも貴校の配信の取り組みを今後の参考にさせていただきます。
- 授業担当の先生方はじめ、関係の先生方大変お疲れ様でした。おかげで大変参考になりました。
- 研究概要報告のところで、所々で学校紹介の映像を同時に流されていた時に、何度か映像の音声と説明の音が重なって聞き取りづらいところがありました。説明と映像をはっきり分けていただけたらよかったかと思います。

(5) Google classroom にアクセス (ログイン) や関係資料のダウンロードの操作について  
 使いやすい 28名(88%)       どちらでもない 3名(9%)       使いにくい 1名(3%)

(6) YouTube live での配信の画像（音声も含む）の受信状況について

- |  |           |
|--|-----------|
| <input type="checkbox"/> 動画・音声とも観ることができた           | 31名 (97%) |
| <input type="checkbox"/> 動画は見えたが音声聞こえにくかった         | 1名 (3%)   |
| <input type="checkbox"/> 音声は聞こえたが動画は見えない状態だった      | 0名 (0%)   |
| <input type="checkbox"/> 動画・音声とも観ることができなかった        | 0名 (0%)   |
| <input type="checkbox"/> カメラアングルが悪く、授業の雰囲気わかりづらかった | 0名 (0%)   |

資料3 学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート結果 2021年度

「はい」と回答した生徒の割合

NO	質問内容	回答	全校生徒		1学年		2学年		3学年	
			9月	1月	9月	1月	9月	1月	9月	1月
3	毎日の生活に充実感がある。	はい いいえ	90.2%	93.3%	90.1%	92.1%	87.0%	91.8%	93.6%	96.0%
4	不安や悩みを抱えた場合、ストレスを解消する方法を知っている。	はい いいえ	92.0%	94.6%	90.7%	94.1%	90.6%	92.6%	94.7%	97.2%
5	つらい思いをしたとき、相談できる人がいる(相談方法がある)。	はい いいえ	94.9%	96.5%	93.7%	95.8%	93.6%	95.7%	97.5%	98.0%
6	誰かが困っているときに助言や手助けをすることができる。	はい いいえ	96.9%	97.3%	97.3%	97.8%	95.0%	96.0%	98.3%	98.0%
7	周囲の人にほめられたり、認められたりしたことがある。	はい いいえ	97.1%	98.1%	97.0%	98.6%	97.2%	97.2%	97.2%	98.6%
8	人のために役に立っていると思うことがある。	はい いいえ	82.5%	85.2%	81.3%	81.7%	81.4%	83.2%	84.8%	90.7%
9	友達と協力して物事に取り組んでいる。	はい いいえ	97.0%	97.8%	97.0%	98.3%	96.7%	96.3%	97.2%	98.9%
10	周囲の人をほめたり、認めたりしたことがある。	はい いいえ	98.8%	98.7%	98.1%	98.9%	99.2%	98.6%	99.2%	98.6%
11	自分のことが好きだ。	はい いいえ	69.1%	75.4%	67.3%	71.1%	64.8%	70.7%	75.1%	84.5%
12	得意なことや自分の良いところを生かすことができる。	はい いいえ	80.8%	84.8%	76.9%	80.9%	77.6%	83.2%	87.8%	90.4%
13	自分のことを大切にしている。	はい いいえ	94.0%	95.0%	93.4%	93.5%	93.1%	94.3%	95.6%	97.2%
14	自分の中にはいろいろな可能性がある。	はい いいえ	84.5%	87.0%	80.2%	82.0%	85.6%	86.1%	87.8%	92.9%
15	学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思う。	はい いいえ	96.2%	97.1%	96.7%	97.5%	94.5%	95.5%	97.5%	98.3%
16	本校の販売実習「熊商デパート」を通して地域や人の役に立ったと感じたことがある。	はい いいえ	74.4%	94.5%	46.7%	95.5%	82.0%	90.9%	94.7%	97.2%
17	商業の授業や資格取得(商業関係の検定)は、社会の役に立つと思う。	はい いいえ	98.1%	96.6%	99.2%	98.6%	96.7%	93.8%	98.3%	97.5%
18	社会人になってから人の役に立つ仕事ができるようになりたいと思う。	はい いいえ	98.5%	98.8%	98.1%	98.6%	98.9%	98.3%	98.6%	99.4%

自尊感情、自己受容感、自己効力感、自己信頼感、自己決定感、自己有用感の“6つの感”が密接につながり、自己肯定感を高めることができる。特に質問番号11の「はい」と回答した生徒の割合が低く、自尊感情と自己受容感が低いことが明確になった。このことから自尊感情とともに自己受容感を高めることが自己肯定感を高めることに繋がる。また、各学年それぞれの個性があるものの、現3年生は質問項目の全てで他学年を上回る結果となった。新型コロナウイルス感染症拡大のために、この2年間は多くの学校行事が中止や規模の縮小により、高校1・2年生は通常の学校生活や学校行事を経験する機会が失われている。3年生のみが高校1年次に通常の高校生活を経験したことも一因だと考えられる。人との関わりを持った学校行事を通し、充実した高校生活を過ごすことの大切さを感じている。